

豊前志

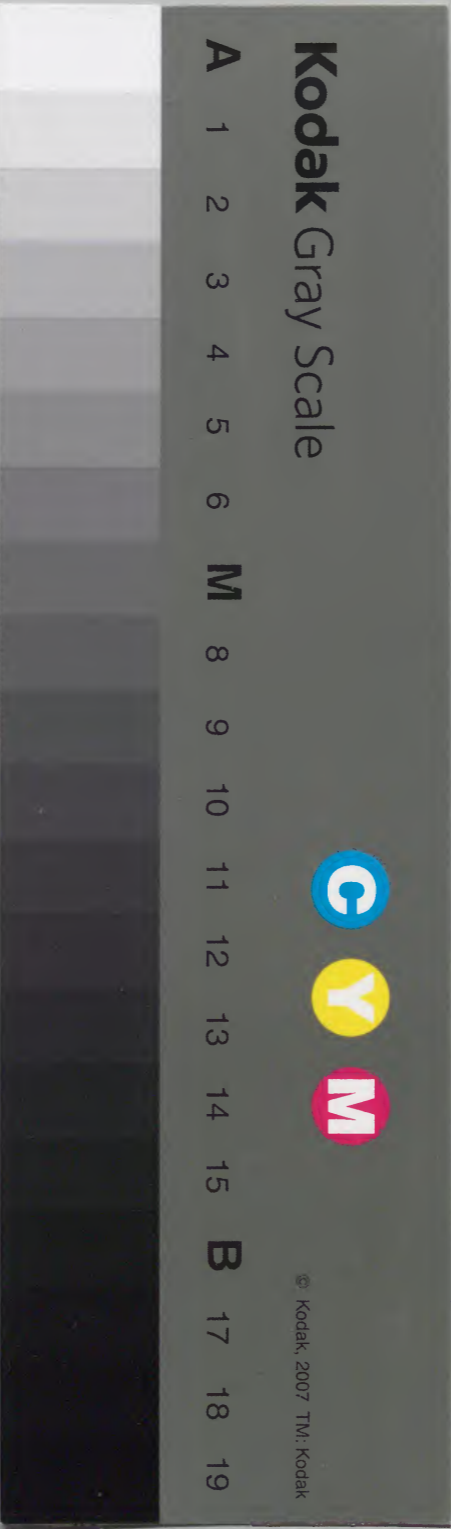
上毛郡
下毛郡

七八

内閣文庫		和書類
二九三	七五	號
七六	四	冊
九		架

内一〇四九號

内閣文庫	
番號	和 29375
冊數	4 (3)
函號	176 60



里前
七
八
志

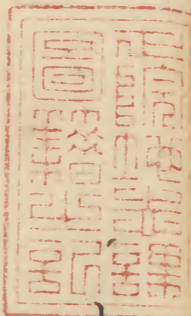
八
お
新
子
以
收



山

内 一 一 〇 四 九 號

上毛



上毛郡



豊前志世之卷

渡邊重春著

和名鈔云豊前國上毛

加年豆

續紀天平十二年廣嗣ノ亂ノ夷云豊前國上毛郡

大領紀牟麻呂等三人共謀斬賊徒首四級

筑後風土記云豊前國上膳縣

重春云上毛ヲ今カウゲト唱フハ音便ニ崩レ

タルナリ渡邊明ガ所藏セル正安三年ノ田地

活渡證文ニハ下毛ヲシモツミケト書リ然レ
ハ上毛ヲモ其頃ヲデハカムワミケト正シク
唱リニ事著明ニ扱上毛下毛ト郡ヲ上下ニ分
ケタルハ稱後世ノ事ニテ往方ハ美毛郡ナリ
ケム其ハ上毛下毛ノ郡界ヲ流ルル河ヲ景行
天皇紀ニ御水川トアルニテシラル惣テ上下
前後ノ名郡國ニアルハ後ニ別チタルモノニテ
豊前豊後ハ本豊國ナルヲ前後ニ分チ上野下
野ハ本毛野國ナルヲ上下ニ分テル類皆同シ
猶美毛ノ名義ハ下毛郡大江社ノ下ニ云ムトス



或記云細川家ヨリ御引渡ノ高上毛郡三萬五百
七十石八斗一升六合一匁

○山田郷
今モアリ鳥越四郎九村ノ近隣ヲ惣テ山田郷ト
云字佐郡記ニ山田安藝守ト云人見エタリ此邊
ノ地頭ナルハ

○炊江郷
定村翁ノ八屋驛ノ西ナル鈴子川ノ水上ニ炊江
ト云処アリ鈴子モ炊江ノ漢音ス不コウナルヲ
訛ル成ヘシト云レタルニ従フヘシ或人ハ今

下毛郡シヤウモウ屬タルシヤウモウ證江繩手ト云是ナリト云ルハ
強説ナリ此邊ハ往古トテ上毛郡ニ屬タラム
事覺束ナク地ナレシヤ

○多布郷

今唐原村ト云アル是ナリ古クハ多布原ト書モ
見エ宇佐宮寺造營日記應永元年ハ御鶴羽
屋ノ事云々御找本ハ野仲郷役也作料以下ノ雜
○山事ハ封戸并分并得富名所役也ト見エタル得富
ハ多布ラ訛ヨコナマレルニ少有ケル定村翁ノ田淵村ヲ
多布ノ訛レルナラムト云レタルハ富ラヌ

○上身郷

今ハ詳サダカナラス中昔ヨリ廣津直江小大丸村ノ近
境ヨシトミヲ廣ク吉臣郷ト云此ニ因テ考ルニ上身ハ
吉字ハ畫カクノ脱タルニテヨシシノ郷ナルヲ吉臣
トモ書テヨシト訓イハリシヲ中臣豊臣ト云言ノ
アルヨリヨシト云イヒナラハ傲セルニハ非ルニカ是
モヤ、古クヨリノ事ニテ宇佐宮寺造營日記應
永元七年放生會ノ丸ニ上毛郡吉富郷ト見エタ
リ豊前神跡圖考ニ古表宮ノ西ニ皇后石ト云ア
ルヲ適合石トシテ其ニ附會ノ説ヲ加ヘテ上身

フウヘハラミト訓メルナドハ捧腹ニ堪タル説
 ナリ定村翁ハ八屋ノ東南ニ上道ト云アリ是上
 身ヲ訛ルナラムト云レキレド此ハ八屋ヨ
 リ宇鳩ヲ経テ中津ニ通フ道ノ下ノ方ニアルニ
 對ヘテ上道ト云ナルハケレハ取難シ何レニモ
 此郷ハ上ニ云ル邊ナルヘクソ所思ル
 ○鳥居畑 篠瀬 岩屋 大川内 川底 川内
 下川内 山内 青畑 永久 川原田 狭間重
云姓氏録ニ谷直 漢師建王云 藥師寺 矢方 尻高 緒方 安雲
 成恒 畠田 皆毛 小石原 三毛門 沓川

久松 三樂 恒富 小大丸 市丸 清水 西
 梶屋 六郎 岸井 廣瀬 久路東 塔田 戈
 尾 今市 吉木 野田 八屋 荒堀 大村
 四郎丸 鳥越 赤熊 森久 友枝上 西友枝
 大入 土佐井 原井 百留 唐原上 垂水 幸
 ○子 宇野 廣津 鈴熊
宇佐宮寺造管日記應永可
二年ノ處ニ云九月二日豊
後筑前所々ニ逆徒等蜂起ニ依テ屋敷大先上毛郡鈴熊ニ
御下着仍宇佐大宮司公兼鈴熊ニ參リ御目ニ懸候之間九
列悉靜謐之時可有御參宮之旨御願之由被仰出早同
十一日當社震動ス此段鈴熊ニ住進云々ト見ユタリ
屋形トハ大内
家ヲ云ナリ 吉岡 宇野 八並 中村 土屋
 直江 別府 此郡府ノ有シ地ニヤ國府ノ本府ナル
對ハタル稱ナルヲ思ヘ

大瀨 今吉 榆生 小大丸 小祝浦 古表社傳起
浦 カ島上云レヨシ見エタリ 其後寛永九年ノ頃ニテ小今井
浦 ト云レシニ或時細川三齋小祝ノ預亭ニ遊宣セラレ
々時 シモ和子君誕生アリシヨシ告来リシカハ甚欣然ハ
セラレテ能領後小今井ヲ子祝ト改ムヘシト命セラレシ
トツ今又子ヲ改テト書リ此ハ何ノ頃ヨリノ事ニカ
寛文六年ノ文書ニハ既ニ小祝ト見ユタリ

○八幡古表社

吹出高濱ニアリ祭神息長帯比賣命虚空津比賣
余ナリ 古事記云息長宿禰王娶葛城之高額比賣 傳起云聖
武天皇天平十六年甲申宇佐八幡宮依御託宣始
被行放生會昔大隅薩摩隼人降伏之時奏伎樂於戰

場今又古表彫木像云々自廣津洲崎 重春云俗古表
宮トモ云是ハ行幸ノ御場ノ宮ナルヲ御場ト云ヨリ古表社
ノ伯母神ニ座ス如ク思誤ナク尊稱ヲサヘ加テ伯母様
ト云習ハセリ今ハ石祠立リ八月十三日神輿及傀儡子
猶古表崎ノ下ニ云ヘシ
奉乗船到和間海上 重春云宇佐高藻川ノ流末 奏細
男伎樂悉表古之形體也奉稱古表社 重春云應永
寺造營日記放生會ノ処ニ古表船ニ艘一艘ハ下毛郡千
間名之野役也一艘ハ上毛郡吉富郷所役也トアリ古
表船ニ艘トハ一艘ハ今ノ古表社一艘ハ下毛郡伊藤田村
古要社トナリ古要古表ト云リ

後鳥羽院文治四年戊申三月四日吹出濱之民屋
火災餘煙及古表社神宦早來奉出神體奉置示氣
長大神宮之相殿其後無造營故合祭本宮而奉申

八幡古表社奉號八幡宮者為八幡三所之一神也
大重春云細男舞事^ハ宇佐宮縁起^ニ皇后將征異
國^ニ時白髮老人來奉導曰磯鹿嶋有安曇碓良者
亘^リ召^シ之借^リ干珠滿珠^ヲ於海神若得^レ此珠則三韓自
服矣皇后曰如何可召老人^ニ云此童愛細男舞又
名男良舞為^レ之使自来皇后曰誰為^レ之老人言使
供奉人奏音樂翁自舞之既而舞碓良忽化舞人
姿着淨衣踏皮脛巾掛鼓於頭以袖掩顏乘龜申
自海中出皇后乃使妹豐姬^{命今云壺空津姬}與碓良
至海神宮借得^レ二珠於是投^レ此珠於海而三韓降

伏ト見ユタルゾ權輿^ニハ有ケル神功皇后御
傳記ニ志加海神社ハ大綿津見大神鎮座云々
此神の碓童^トソノ人^ト化^ス御杵を取^ル一
ふ^トソノ俗説の物どもに多く見ゆ^ルし^ハ此
由有^レル^ハト云^レタリ然^ルヲ養老五年
大隅薩摩ノ真人等が^{ソノ}時^ニ此事續紀^ニ宇佐宮
御魂代^ヲ神樂^ニ乘^セ彼国^ニ行幸^{ナシ}奉^リシ
事^{アリ}放生會^記其時此伎樂ヲ用^テ敵心ヲ盪^ラ
シ討^亡セル^ニ扱^テ放生會^ニモ行^レシ趣^{ナリ}
如是^テ放生會^モ年久シク絶^テ唯細男舞^ノ式

ノ、宇佐宮ニ夕古表古要ニ社ニ存レリ
宇佐宮ニ傳ハレル哥ハ一ツ也
と傳の廣瀬ノ身を清先也
との神にいくツヤははらつる
一也あ、よき馬にさし鞆さうくたつらふ
と獨のけぬきむけくツヤ神とせらる
一也あ、出雲のあねも清の清也
か、金燈をツヤ神とす
一也あ、神許のさすも
とも也急のあ、の溪に

一也あ、宇佐の神宮とらるのいハ
一也あ、出雲のあねも清の清也
か、金燈をツヤ神とす
一也あ、神許のさすも
とも也急のあ、の溪に

宮北をさのめおしるるより
 宇佐のまの小倉の山
 北山流ふるさの松の末を榮ふく
 世の姫松
 の末をさのめおしるるより
 國の長のあしるるより
 宮のをさのめおしるるより
 吹出の溪の懐姫の
 歌フナリ此歌ドモハ誤
 ナレ猶古クヨリ傳り来ラム
 榮花物語ニ御靈
 會の細男此舞ニ
 有ケル類聚國史ニ貞觀十六年太宰府言香椎廟毎
 春秋祭日志賀島泉郎男十人女十人奏風俗樂ト見エタ
 ルマ山城國薩宮ハ幡宮ニモ本偶人アリテ細男ト云ヨ
 同レ何レモ其出自ハ細男ト云ヘシ

住吉社 市杵嶋社 諏訪社 得達社 四十神

何レモ末社ナリ四十神ハ本社合殿ニアリ

外宮趾

社地ノ右圖ヲ見ルニ東南ノ隅ニアリ今僅

ナル小山アリ其処ニテモ有メヘシ

吹出濱

夫木集云フ 秋のあまさと寒うらむ浦風は

吹心の懐此千鳥あり 鷹司院司 秋風吹

心の懐此濱姫をおまゝあはれや衣のうらむ平祐舉

童春云是此社ニ座ス姫神ノ
 御上ヲ詠奉ルナリ

日野大納言資郷御奉納歌云々返丸やみ

此溪の御所しほとふるをいふ千舟ちふねと云

此瀆ニ筆草ト云モノ生出ウチイツ實ニ筆ニモ用井ル

入キ品ナリ我師ノ神世ニハ此品ヲ筆ニ用井タル

由云レタルハナルフニナム兼葭堂雜録ニ筆草ヲ撰

ニテハ蓮加筆ト云ヨシ見エタリ前ニテハ天生筆ト云ヒ北國

菱池

古表社ノ北ノ畑中ナル甚廣イトヒロキ沼ニテ是社ノ

御午洗ナリ古今六帖チ筆ナリ豊國トヨクニの菱池ある

菱の根とともともト也妹の袖ぬト午ト見エタリ

是ハ萬葉集ナル豊國トヨクニ企救キケク乃池イケ奈流菱之字禮字

採跡也妹イモ之御袖ミソデ所治計武ト云歌ナルヲ當國ニ

○古表池ト云モ素ヨリ有アリレ故引誤レ此モ人ナリ

古表崎行宮

古表崎行宮

傳記云廣津洲崎ニ建社安置神躰并四十箇木像

自此有古表崎名後有神託曰今我居須所狹志氣

長大神宮乃邊仁遷理居宇事初願布者以此神託

遷本宮之西而以為氣長大神別宮

重春云此宮廣津村ニアリ俗名才分サ宮ト

稱フ其由ハ古表社 叔往昔宇佐宮放生會有シ時古
表社ノ神輿ヲ此崎ヨリ舩ニ乗奉リ舩ハ小祝浦
和間濱ニ行幸アリテ伶人等細男舞ヲ奏セシテ
リ放生會記 故和間濱ニモ古表崎ト唱フ処アリ
如是テ也ノ亂ニ遇テ宇佐宮ニ衰替甚シク放生
會モ執行ス成ニ夕リ然テ後ハ古表宮此洲崎ヨ
リ舩ニテ垂水村ノ川原ニ行幸アリテ放生會ノ
式ヲ行ヘタキ今垂水村ニ古表社ノ御舩入マ夕
市場ナド云処アルハ是故ナリナルハ上古垂
水ノ邊マテ此社ノ神領ナリシ由ニテ今モ彼村

ノ田字ニ古表田ト稱フアリテ毎年ノ御祭ニ作

初穂トテ教或ハ番禾ナド必調進セリ

○宇賀神社

小大丸村ニアリ天正ノ頃黒田侯城井城主宇都

宮鎮房ヲ討テ其女千世姫長政ノ室ト成テ及女房女

四人残ナク小大丸ノ川原ニテ殺シ夕リ然ルニ

其処ニ一本ノ松アリケルガ其松ニ教奇瑞アリ

シカバ社ヲ建テ千代姫女房等ノ靈ヲ祭り宇賀

神ト稱ス由宇都宮關譚記城井谷物語等ニ見

エ夕リ此千代姫ノ嶽屋ニ幽囚ラレシ持工匠ノ

物作ル者ヲ聞テ何ヤラムト番ノ者ニ問ケレハ
機ノ木ヲ作り侍ルト答ケルニ即テ山中
守ル果カモ唐衣誰カモアリキモ裁モ
抑ト詠ケレハ如水聞テ哀トヤ思シケム刑罰
猶濠アルヘシトテ暫其沙汰無クシトアリ

○牛頭天主宮

垂水村ニアリ六月七日八日祭禮ナリ八日鶏鳴
ノヨリ近里ノ諸人參詣ヲ里人苦木ノ枝ヲ賣ルヲ
買ヒ持帰ルテ門戸ニ挿スナリ然スレハ必疫癘
ノ災ヲ避ト云云

○宗像八幡宮

鳥越村ニアリ祭神三女神應神天皇仲哀天皇神
功皇后ナリ合殿ニ住吉大神ヲ祭レリ然レテ三代
実録ニ豊前國大富神ト見エタルニ於テ近世相殿
ニ大富神ヲ齋奉リテ播紳家ノ扁額ヲ懸タリ
古縁起ニハ大富神ト云神名見ヘス

○石清水八幡宮

黒土村ニアリ縁起ヲ見ルニ古クハ白旗社ニ在
シテ神告ニ因テ今ノ社地ニ遷セルナリ境内ニ
清水アリ一夜ノ間ニ湧出タリト云田字ニ二月

田三月田四月田六月田霜月田猿樂田鈴田神子
畠修覆田十下云了ルハ皆神田ナリ云ト云

○求菩提山權現

豐鐘善鳴録云釋行善不知何許人也重春云續紀

六月戊戌詔曰沙門行善貞復送學既經七代備嘗
難行解三五行方歸本鄉務賞良得如有修行天下

諸寺恭敬供養養老初抵豐前州求菩提山自縛節

茨靖居人外求菩提山素大已貴命所爰也善初陟

山有一童子釘一盂飯擊來侑之善知是天童而祇

受焉已而登絕頂詣靈祠致敬持咒時有一天女放

○光降於空中告善曰我是白山權現也前贊越智恭

徹頭跡于天嶺今復為助汝遙來到神嶽云云善不

覺五體投地禮敬喜躍乃就上宮奉安其靈儀山中

有五石處俱不測之靈區也云々名寺曰護國以鎮

護國家也重春云天童天女ノ事ハ例ノ先
氏力妄言十ノ事云フモ更也又云釋

賴嚴豐前州宇佐郡辛島村人姓藤氏赤髮將軍之

後裔也云云保延初回豐州適求菩提山訓誘衆徒

興隆其廢遂建寶塔造佛像云云又嘗命工鑄銅版

鑿一尺三十二枚雕書法華八軸於其背面真諸嶽

之室宮其字畫縝密筆鋒精妙固非凡庸之為也康

治元年八月念四日抵宇佐郡妙樂寺入石壇唱滅

鳥云平八代公西下海中嶺世傳又奇獻

○鬼神

西田翁云筑後風土記云古老傳云當雄大迹天皇

之世筑紫君磐井豪強暴虐不偃皇風云々宮軍動

發欲襲之間知勢不勝獨自遁于豊前國上膳縣終

于南山峻嶺之曲於是官軍追尋失蹤不見云々

上膳縣八上毛郡于南山峻嶺之曲云々求菩提山

ヲ置テハ外ニ有マシキハ鬼神社ハ磐井ノ靈

ヲ祭ル成ヘシト云ハルハナリ有ヘシ但シ磐

井ノ事ハ繼體天皇紀二十一年ノ処ニ筑紫國造

磐井陰謀叛逆猶豫經年恐事難成恒伺間隙新羅

知是密行貨賂于磐井所而勸防過毛野臣軍於是

磐井掩擄火豊二國勿使修職云々二十二年冬十

月甲寅朔甲子大將軍物部大連鹿鹿火親共賊師

磐井交戰於筑紫脚井郡遂斬磐井果定壇場ト見

エテ風土記ノ説トハ異ナリ何レ是ナルカシラ

ズ

宇都宮家譜云上毛下毛二ヶ所十九町求菩提山

大權現令寄附建仁元年辛酉十一月朔日景房

宇都宮記云天文中求菩提山番八塩田内記吉

重

重春云此山ノ名ヲ求善提ト云事ハ葉シボラ挽テヲ覆

タル状ニ山容ノ類タレハ成ヘシ葉挽ハ和名

欽ニ葉挽天久保大嘗祭式ニ允供神脚雜物者大

膳職所備多加須伎八十枚並居葉挽ヲ久保喜覆以

笠形葉盤比良豆空穗物語俊蔭卷ニさ備の

物此葉を之ほふこく推栗柿梨芋

野老のと入く云々ナト見エタルヲ思ヘ

ハ柏葉或ハ荷葉其餘ノ木葉ヲ多加須伎ナド

敷ハ然ナガラ用井モシ又挽ノ如ク中

窪ク刺モシテ物ヲ盛レモノナリ相模家集云

今我中津ノ田舎ニテ

掌ニ飯ヲ入テ食テテ窪食ト云モ窪ト云意

ハ異ルフナレハ葉挽ヲ覆タル似タルヨ

リノ名義ナル事知レタリ

神護寺八天五十年終文身五年終

此山ノ座主ナリ此餘僧坊百二十區アリ扱西田

翁ハ此山ニ古器ノ甚多キヲ以テ當國ノ法隆寺

ナリト云リ矣ニ古器ハ甚多クゾ有ケル年月ヲ

記サス古器ハ枚カ擧ツヘカラス其知レタルハ花ノ

如云古器八...
保延六年經筒 久安六年經筒 曆應二年金鼓
永德二年鐘 享德三年舍利塔 文明十年佛
器 明應五年碑 天文五年金鼓 同十三年碑
師 永祿八年碑 天正十七年碑 慶長五年佛器

同十年碑

○松尾山

豐鐘善鳴錄云釋能行不知何許人也嘗隨法蓮和
尚于彦山般若窟精研行法神龜五年春登豐之松
尾山在絕頂巨松之下得一瑠璃壺形如寶珠而其

○中有藥色豔者以為是白山神授乃感歎祇受使病
者服其患立瘳百夜有一老叟來告行曰夫此藥雖
神所授今復闕之曰處誠祈於神則必蒙靈庇言訖
即隱行乃知是神告遂歛壺山椒封以石浮圖於是
行之芳韻高舉州人厚嚮神德云
重春云神授八例
ノ妄言ナリ丁論
ヲ俟
ス

○如法寺

山内村ニアリ平都宮家譜云如法寺文治年大和
守信房建立座主少僧正生西信房三男也

○天仲寺

...

○天廣津村ニマリ往昔ハ卧牛山中日寺ト云シヲ後
 金龜山天柱寺ト改メ又金牛山天仲寺ト改メ
 タリ小笠原長次君同長圓君ノ靈祠アリ中音廣
 津山ト云シハ此山ナリ寛文六年長次君ヲ葬リ
 シヨリ土人御山ト呼ヘリトソ今田字ニ御山
 下ト云アリ長次君ハ寛永九年中津城主トナレ
 次君ノ曾孫卒シテ
 真淨院ト謚ス長圓君ハ長
 ○廣運寺
 同村ニアリ山上ニ金毘羅社アリ
 ○岩屋寺

○狹間村ニアリ當國三十三所觀音ノ一所ナリ
 ○狗嶽
 此郡ノ大山ナリ豺狼猪鹿多ク住リテ此ニ
 ○雁股山
 西友枝村ニマリ
 ○土佐井川
 此川ノ石皆圓ナルガ悉ク指以テ推タルヤウニ
 産キ所一処アリ如何ニモ事ノ縁アリヌヘシ此
 川尻即黒川ナリ
 ○犀川

○水原ニアリ一ハ求菩提山ヨリ出一ハ登々呂山ヨリ出ツ下川内村ノ邊ニテニ水合シテ北ニ流レテ海ニ入ル

○沓川山ノ西ニ有リ山ノ西ニ出テ北ニ流レテ海ニ入ル

○土水原犀川ト同シ下河内村ノ邊ニテ分レテ北ニ流レテ海ニ入ル

○境川山ノ西ニ有リ山ノ西ニ出テ北ニ流レテ海ニ入ル

○水原犀川ト同シ薬師寺村ニテ分レテ北ニ流レテ海ニ入ル

○八尋墮林ニ有リ山ノ西ニ出テ北ニ流レテ海ニ入ル

○八屋驛ノ西ニアリ夫木集云々其地ノ水ハ東ニ流レテ海ニ入ル

○御所島廣津川ハ流末小祝浦ト小大丸村トノ間ヲ流ル

○皇云河申ニ在シニ三四年許以前ニ洪水ニ流レテトソ今ハ跡タニナレ

○龜居洲古表社ノ北ニアリ

○京泊末坊ノ東ニアリ

○古表社ノ東ニアリ舟泊スベシ

○觀音原

○寺野村ニアリ黒田長政主鬼木掃部ト合戦シテ

○香鬼ホシ討取シ処ナリ

○皇后石

小大丸村ノ北ニアリ周圍一丈五尺五寸高四尺

○許アリ古老傳云上古神功皇后此石上ニ頭座リ

即吹出瀆ニ齋奉テ氣長大神宮ト稱ス一説ニ皇

后弟國ヲ討賜ヒシ時宇佐郡船木山人木ヲ伐リ

○八、船四十八艘ヲ造ラセ賜ヒキ其時御船ヲ繫ギ賜

ヘリトモ云事跡考ニ云ルハ附會ノ説ニテ論フ

不足

○傾城石

東友枝原井雨村ノ間ノ山上ニアリ此石ノ上ニ

男子登レハ小兒ニテモ動キ女子ナレハ動カス

○歌レキ事ナリ帰鞍吟草ト云モノニ大磯虎石俗

稱此石虎魂所化也女鑑曰大磯虎者伏見大納言

爆炭生虎実養男子扛之則羽醜夫則千鈞是故往來

少年無不脩飾試其輕重下見ニタルモ同類ヒナ

○意リ

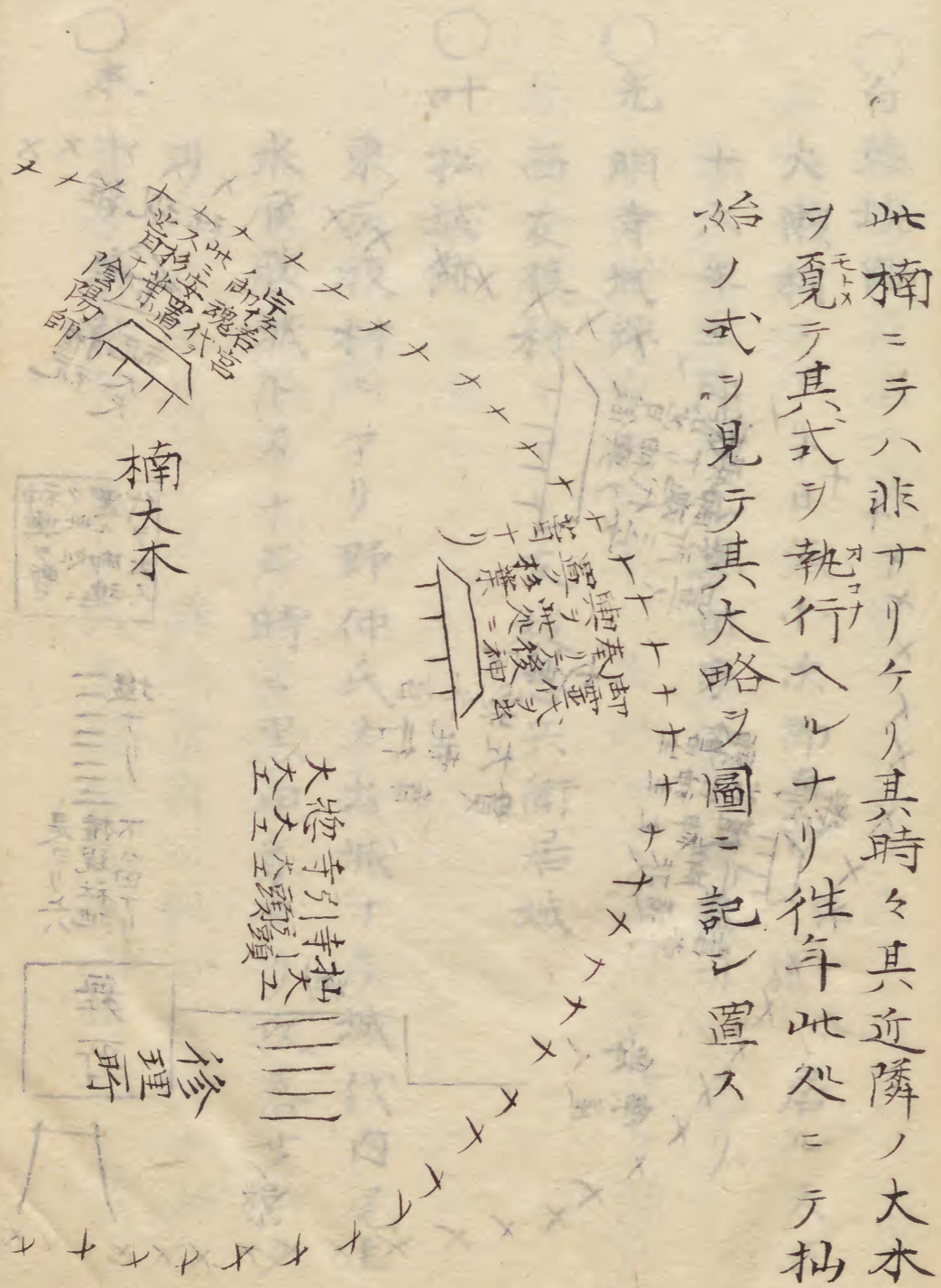
○龜石

原井ノ山中崎アリ石ニ手足顔尾ノ形似テ龜ノ如シ朝旭ノ出ハトスル時少石ノ首東ヲ向フト云

○川底村楠

楠ノ大樹アリ此処ニテ宇佐宮二人御殿始人式アリ但シ宇佐宮寺造營日記ニ應永丈七年八月廿五壬戌日申刻二殿始在之豊前國上毛郡畠河内一瀬坂山道別之大楠也御殿以下儀式并役人等一殿ニ同シトアルヲ以テ見レハ古クハ

此楠ニテハ非サリケリ其時々其近隣ノ大木ヲ覓テ其式ヲ執行ヘルナリ往年此処ニテ始ノ式ヲ見テ其大略ヲ圖ニ記シ置ス



○本 矢方村ニアリ建久六年鎌倉右大将ノ命ヲ受テ
佐々木三郎大夫頼綱當國ヲ領セシ時此城ヲ
築キテ七代居ル其後菊池氏ニ亡サレタリ後夫
方次郎正綱守ル天正八年野仲ト戦ヒ討死セリ

○雁股山城跡

○長岩城主野仲兵庫ノ出城ナリ城代友枝大膳丞
居ル黒田家ヨリ攻落サレタリ

○大村城跡

○宇都宮常陸介親実守ル天正十六年九月九日黒

○山 田彦欺テ中津ニ呼寄セ討取タリ

○赤熊村城跡

○川 豊後國屋形某ノ息女及家臣木部和泉居レリ

○川内村城跡

○宇 宇都宮常陸介ノ寨ナリ古内崎同言内只長

○川底村城跡

遠藤源兵衛居城宇都宮ノ家臣ナリ

○八屋村城跡

○同 安城寺常陸介家臣宮尾織部居城

○同村城趾
城主未詳
宇佐郡記
蜂屋隱岐守ト云人見エ夕
リ決夕是ナレバ今城屋敷ト云

○高田村城趾
宇都宮大和守ノ家臣有吉内記同宮内兄弟居レ

○緒方村城趾
同家臣緒方帯刀同刑部等居ル黒田家ヨリ攻落

○山田城趾
四郎九村ニテ山田左近大夫元房居城宇都宮
ノ一族ナリ

○川底村城跡
川底彌次郎甫房居ル宇都宮ノ一族ナリ黒田家
ヨリ攻落ナレタリ

○日瀬城趾
今篠瀬村アリ是ナルヘシ渡辺右京進重反同興
十郎居城石京進古表宮司ナリ宇都宮鎮房中津
城ニテ黒田家ヨリ欺討レ時同士十六人ト共
廣津村廣運寺ニ入テ自殺セリ尚地人ノ事

○築城郡茅切山城跡人下ニ云リ重石九三日ノ瀬ヲ
即向テ思ヘハ日字ハ四ノ誤ナルハク覺エタリ
即四算躰善久似夕炊バナリ石久ハ四瀬ト書心
ナリ

○廣津村城跡ノ是ナリハノ刻ハ石魚重入同典

○日今ノ天仲寺山ナリ天慶三年原經基當困ノ守護

職トナリテ下リシ時三城ヲ築キシ其一ナリカ

○諸少彦藏人行家ヲ置ク五代ノ孫貞經建久七年宇

○宇都宮家ヨリ攻落カレ自殺ス是ヨリ宇都宮家世

々守此弘治三年五月五日大友義鎮當固ニ攻入

○山時城代廣津治部少輔鎮次葛蒲人酒ヲ以テ軍

勞ヲ慰レ事アリ廣津氏ハ宇都宮家臣ナリ天正

十五年黒田家ヨリ攻落カレタリ

○田島寄城跡

是ハ何処ナルカ未詳成恒越中守居城ナリ

和名跡ノ上モナカク大友義鎮今ノ刻ハ石魚重入同典
八訓ハ島レノ事モ重天今ノ訓ハキ事ノ推テ
卷八ノ今ノ刻ハ石魚重入同典
又書ハハモリノ事モ重天今ノ訓ハキ事ノ推テ
ナリ
一 年廣津原ノ刻ハ石魚重入同典

○廣澤理成...
 ○田部...
 十七年...
 進...

豊前志八之卷

渡邊重春著

下毛郡 郷七村 九十六

和名 鈔三上毛ヲ加牟豆美介ト訓ハ下毛ニ

ハ訓ハ無シト志モ豆美介ト訓ハキ事ハ推テ

山寮ヘシ今ハシモゲト稱フナリ正安三年ノ古

文書ニハシモワミケラコホリト書リ其項マ

テハ猶正シク唱ヘタリシ成ヘシ續紀天平十

二年藤原廣嗣ノ乱ノ条ニ豊前國下毛野ト見

下毛

エタリ野字ハ郡ノ謬ナリ豊前國下志野ノ
或記云細川家ヨリ脚引渡ノ高下毛郡四萬三
千百九十二石四斗三升八合九夕九戈其
山國郷

今モアサ此邊惣テ溪山人景色甚々面白
裏カ西遊稿ニ耶馬溪山天下無ト作りタルハ

不実ニ然ル事ナリケリ但山國ヲ耶馬溪ト書ル
ハ如何ゾヤ耶馬ノ吳音ヤマナレハ山國ノ山

ヲ真字ニ書タルニヤ然テハ山溪ニテハ詞足
豊テス山溪ハ所トシテ非ル事無レハ何処ヲ指

テ云リトモ辨ハ難キヲヤ惣テ往昔ヨリ定リ
タル稱ノアルヲ漢學スル徒人己カ心ノ向々
ニ校意ニ稱ヲ改テ呼ナルハ太ニキ癖事ニナ
レ或ハ今ノ京ハ平安宮ナルヲ洛陽長安トト
云ヒ或ハ文字ノ多キヲ短クモシニ字ナルヲ
一字ニモシテ強テ唐土メカニ唱メ又拾芥
抄ニ東京號洛陽城西京號長安城ト書ルタル
天世ノ聲ニ效ヘルモノナリ何事ニマレ稱呼
テハ正シク欲為キ物ニコソ扱出雲風土記ニ
同シ郷名アルヲ布都努志命之國廻坐收来坐

同シ郷名アルヲ布都努志命之國廻坐收来坐

此處而詔是土者不止欲見詔故云山國ト云事
見エ夕リ此處モサレ意ノ名ト聞エ夕リ

○大家郷

中津城外沖代ト云甚廣キ田畝アリ其見渡
サレ、限リノ村閭ハ皆此郷ナリ和名針ニ大
家ヲオホヤケト傍訓ニ附タルハ非ナリ石見
國通摩郡ノ郷ニ同名アルヲ於保伊倍ト訓ル
ニ從フベシ但シ此處ナルハ畧言ニオホヘト
呼フナリ今又大家ヲ訛リテ大江ト書リ宇佐宮寺
造營日記應永廿七年放生會ノ外ニ言ハレタリ
ハ阿杯大家郷所役也トミエタリ

傳記ニハ上古麻殖郷ト云レヨシ見エ夕リ大江

社ノ下ニ季シ然テ八原順主ノ頃ハ既夕大家

○轄

ト訛リ夕リキ扱又萬葉集四同六ニ豊前國娘

子大宅女ノ歌出夕リ大宅ハオホイヘニテ大

家ト同キカ將ヲオホヤケニテ異ナルカ

○麻生郷

今ハ村名トナリテ宇佐郡ニ屬夕リ此モ麻殖

ル名ナリテ宇佐郡記ニ麻生攝津守ト云人見エ

夕リ地頭成ヘシ

野仲郷

○野仲郷

入麻生郷

○今モアリ宇佐大神宮縁起ニ下毛郡野仲之勝
 境林間之寶池ト云事アリ是大負社ノ薦池ヲ
 云ナリ此邊ハ原野甚ク廣シ矣ニ野仲トモ云
 ハキ処ナリ宇佐宮寺造營日記應永廿七年ノ
 ○本条ニ御薦苜會事七月三日初午大負ニ役人下
 着ノ日ハ酒肴饗膳以下ハ野仲郷役也ト見エ
 夕ルハ大負即野仲郷大此ヲ以テナルヘシ
 ○諫山郷ニハ彼方ナラムモ謀リ難シ
 今ハ村名トナシ安閑天皇紀元年十二月人
 處ニ是月廬城部連枳苜喻女嬀媛倫取物部大

連尾輿瓔珞獻春日皇后云々物部大連尾輿恐
 事由己不得自安乃獻紫膽狹山部ト見エ又
 續紀天平十二年廣嗣ノ乱ノ処ニ下毛野擬少
 領无佐勇山伎美麻呂ト云人見エ夕リ何シモ
 此処ノ諫山ナルヘシ但シ膽狹山ハ京都郡
 モ同名マレハ彼方ナラムモ謀リ難シ
 穴石郷
 今ハ名廢シテ何処トモ不知此ハ考ルニ冠石
 野村アリ此村ノ山上ニ冠形ナセル大石アリ
 故冠石野ト云トソ此冠字ヲ和名鈔ニ写誤レ

ルニテ冠石郷ニハ非ルカ式ニ伊賀國阿并郡
又此近村ナル戸原村ニ抵石ト云アリ横ニ
十八九間許アリ豎ハ山麓ナレハ土ニ入テ
穴ニ見エタル処ハ五間許ナル大石ナリ石下
ニ穴アリ深サ限リ知ラレズト云若クハ此石
ヨリ出タル穢ニハ非ルカ又姓氏録和泉別ニ穴
師神主天富貴命五世孫古佐麻豆知命之後也
トアルニ因テ考ルニ大家郷ニ天富アラトミ神社大
江ハアレハ穴石ハ穴師ナルヘクモ所思オボエ若
然ラハ和泉國ヨリ近レルナルカ亦和泉國ナ

ルモ出自ハ大和國ナル穴師ナレハ大和ヨリ
移レルカ何レニテモ有ヘシ此等ニ扱テ考フ
ハキ事ハ非ルニヤ聊イカガヒ驚カシ置クニナム
○小楠郷

今ハ名廢レタレト永添村松尾社ノ縁起ニ小
楠郷ト見エタレハ此近隣ナル事知ラレタリ

○蟻瀬 大塚 下小路 金谷 島田 中殿 宮
永上 萬田 湯屋 藍原雄畧天皇紀云三島郡
島下郡安威桐式云棋津國島下郡阿為神社姓氏
録神明云中臣藍連富大臣命十三世孫大江臣之
後也 牛神 一松 宮夫 萱津 入高瀬 大新田

東濱池永上 助部 中原 大悟法 全德
是則 田尻 諸田 福島 伊藤田 上 大丸
赤迫 永添 定留 合馬 加來 錫島 北原
大負 植野 上 野依 今津 諫山 上 原口
佐知 田口 小袋 成恒 土田 深水 上
臼木 森山 糺 多志 田 曾木 平田 冠石
野 樋田 三尾 母 小友 田 屋形 下 東西 今行
川原 口 大野 落合 中畑 栢木 柿坂 福
土 槻木 折元 跡田 東谷 西谷 柿山
大窪 島 金吾 山移 戸原 樋山路 宮園

岸曾 藤木 中間 草奈 平小野 吉野
屋川 守實 以上九十六箇村ナリ 助部 村人 田字ニ 別府ト
云アリ 是郡家ノ 在ニ 地ニヤ

○下毛驛 兵部式ニ 驛馬 五尺ヲ 置クヨリ 見エタレト 今
ハ 此名 廢シ 夕ノ 但ニ 槻木 村ノ 田字ニ 下毛ト
云ハ アレド 彼方ニ 官道ノ 有ベクモ 覺エス 又
合馬 村アリ 是傳馬ヲ 説シルニ 八水ノ 力應 永
十年 宇佐 宮坊 領坪 所 渡邊 明ニ 下毛 郡 大家 野



仲西郷内本自見名坪付一所二段廿門田此内
 有早馬田ト云事見エ夕リ早馬田ハ傳馬田云
 云類聚國史弘仁十三年春正月乙未藤原緒嗣
 大入奏文ニ伏望諸國驛子云々擇驛下好田混授
 任一處許之下見エ夕ル驛子ノ田ナレバクハ所
 ○中思ル抑中昔本自見名今自見名ト云アリテ稍
 廣キ地名ト聞エ夕リ今東濱村ノ枝村ニ自見
 アリ下池永村ハ田字ニモ自見アリマタ大丸
 氣村ノ田字ニ小自見アリ是ニ拠テ考ルニ東濱
 村ノ邊ヨリ池永全徳合馬ノ邊ヲ總テ本自見

ト云ヒ大丸ノ近境ヲ惣テ今自見トモ小自見
 トモ云ヒコソ但ニ東濱ノ邊ハ大家郷ニテ
 池永合馬ノ邊ハ野仲郷ナレハ大家野仲西郷ノ
 内本自見トハ書ルナリケリ然テハ傳馬田モ
 アル上ハ下毛驛ハ合馬村ナル事決カルヘレ
 桑原屯倉
 安閑天皇紀ニ二年五月甲寅置豐國桑原屯倉
 トアリ今槻木村ノ内ニ桑原ト云枝村アリ是
 地ニヤ此村山中ナレト宣化天皇紀元年五月
 朔ノ詔ニ筑紫肥豊三國屯倉散在縣隔運輸遙

阻儻如須要難以備卒亦亘課諸郡分移聚建那
津之口以備非常永為民命早下郡縣令知朕心
トアレハ古クハ屯倉ノ山村ニモ在シテ知テ
レタリ但シ田川郡ニモ同名ノ村アリ又仲津
郡崎山村ノ枝村ニモ同名マリ何レモ海邊ニ
非ズ何処ノ桑原ニカ定難ヲ
○大拔屯倉
安閑天皇紀二年五月ノ桑原屯倉ト同奈ニ見
エタリ今多志田村ノ田字ニ大拔ト云マリ是
古名ノ存レルニヤ確ニハ定難ニ

○中津城

惣テ津ト云ハ河或ハ海ニ副タル船ノ着ヘキ
地ヲ稱フ名ニテ今此國ノ地理ヲ以テ云ハハ
西ニ今井津アリ東ニ今津アリ此処ハ其中ノ
津ト云ヨリ出タル名ニヤ中アレハ前後アリ
上アレハ下アルノ類世ニ甚多ケレバナリ萬
葉集ニ毛母布祿乃波都流對馬トアルハ韓國ヘ
往還スル船泊ル津ナル事ト云事ナルラモ
思抑往昔金谷堤ヲ築ホリシ時高瀬川ノ水廣
ク流シテ此市街ハ並テ川原ナリシカ故ニ中
津川トモ稱シ由テ但シ中津ト云稱ハ古書

二見エス二三百午ノ昔ヨリ呼初シ名ニテ天
正十四年薩摩勢大友家ト對陣ノ時秀吉公毛
利家ニ命セラレテ大友家ヲ助ケラレタリ其
時黒田彦法名如由孝隆軍目附ト云ヲ命セラレ
テ中津ニ來リ六郡京都仲津築城ヲ領知シ地
十六石同十六年正月ヨリ城ヲ築ク事ヲ始ム其
前後ニソ中津ノ名ハ起リヌラム後慶長五年
細川彦法名中守忠興黒田家ニ代テ丹後國田邊
ヨリ來領ス郡地當國八郡ニ豊後速見國崎ニ
九万石ト云ヘ如斯テ元和六年ノ頃マテニ城
ト誤ナルヘシ

郭殘ル方ナク修造セリ有シ由ナリ其ハ天守モ
ト對陣ノ時勅定奉行福原一茶ト云人ヲ召テ
天守ニ積置ク所ノ金銀皆取出シ奉公人ニ與
ル然ルニ享保ノ命ヒラシム事アリト云人ノ開
居草庵記ニ如水公天正十三年ヨリ慶長五年
ニテ惣テ十六年中津ニ在テ城取カキアケ計
申傳フル云々トアルハ不審由但シ忠利忠興
ハ中津ニ居リ忠興ハ小倉ニ居ル廿年ヲ經テ
忠興致仕シテ家ヲ讓リテ中津ニ遷リ分地ハ
説ニ六忠利小倉ニ移シリ寛永九年小笠原彦
右近大夫忠真信濃守細川家ニ替テ播磨國
忠脩嫡男信濃守長次細川家ニ替テ播磨國
龍野ヨリ來領ス領地八万石忠真ハ小倉ノ項

ヨリ市街益々榮エテ月ヲ追ヒ歳ヲ逐ヒ元或
 ハ近里或ハ諸國ヨリ人來リ集ヒテ市街ト成
 タルナリ然ルハ京街博多町豊後町姫路街等
 ノ名アルヲ以テ知ヘシ故中津ノ舊家ト称ス
 ルハ大方ハ他國ヨリ領主ニ屬テ來テ或ハ富
 饒ノ徒子載ノ後ヲ謀リテ榮ユルモ地ヲ覓テ
 來リシ者ニソ有ケル如此テ市街ノ全ク成就
 セルハ寛永ヨリ寛文ノ際マデ三十四年ノ間
 ノ事ト知ラル黒田家ノ時古博多町ハ有テ新
 堀ト云今埋テ新博多町ヲ建テ今ノ諸町新魚
 頃ハ今ノ金谷ヲ上小路ト云ヒ今ノ諸町新魚
 町ヲ中小路ト云ヒ今ノ下小路ト云ヒ由ナリ脚船然ル
 宮ノ近境ヲ廣ク下小路ト云ヒ由ナリ脚船然ル
 天下ノ時勢ヲモ辨ヘスニ元豊國ノ中津ト
 云ヨリ思フキテ何某カ説ニ豊葦原中國ト云
 ニ附會シ又中津之助者神武天皇八世後胤孝
 元天皇皇子大彥命脚兒中津彦雄者并勅而自
 日向國率其臣二十四人與共來而治此中津嶋
 ナド云妄説ヲ云散セルハ絶倒ニ堪サル事ナ
 リカシ寛文六年五月廿九日長次逝去ス
侍ト同九月長勝内匠頭男絶テ立天和二年逝
去スト寒私寺同三年長胤和長勝兄長絶テ立元禄

十一年家名断絶ス至永六年配所小倉同年
小笠原長圓長知未子長中津城主トナル新領
石正徳三年逝去ス眞浄院長鬘長圓嫡男継テ
立享保元年逝去ス靈覺院幕命ニテ四万石并
三城地没取セテ長鬘弟喜三郎ヲ以テ新
播磨國安治ニ封セラル新領和中津ニハ享保
二年奥平侯大膳大夫丹後國宮津ヨリ來領ス
領地ト扱中津記ニ如水公大九越中守清俊大
城ヲ滅シ其城ヲ毀取リ中津城ヲ修造ス因テ
小大九城ト云由云リ又城地ノ扇形ニ似タル

ヲ以テ扇城ト云ヒ郷名ニ扱テ大家城トモ云
ヒ今ハ大江又要城トモ云リシ由物ニ見エタ
○中リ要城ノ名義諸説アレト信難シ要ノ訓カナ
メナレハ此モ扇城ト云ヨリ出タル稱ナルヘ
○輪ニ扱又此城地ヲ古クハ丸山ト云ルヲ以テ丸
山城トモ云シトノ扱城内ニ大堰丹井午ノ水ヲ牽
久事ハ元和六年ノ一ニテ榎左馬細川奉行タ
○添リキ但ニ所々ニ榎ヲ以テ水ヲ通シハ兼應
○元年澤渡志摩小笠原奉行ニテ物セシト云
○城井權現

○中津城内ニアリ宇都宮鎮房ノ靈ヲ祭レリ此
人ノ事ハ築城郡茅切山城趾ノ処ニ云ヘリ

○稻荷社
此モ城内ニアリ鎮房討レシ時城中ニテ戦死
セシ十四人ノ靈ヲ祭レリト云

○神明宮
中津城北門ノ外ニアリ太神宮遙拜處ナリ
中津權現

和漢三文圖會ニ中津權現在中津祭神春日同
體ト見エタレド詳ナラス或説ニ今ノ神明宮

ノ地ナリト云リ又宇佐郡記ニ追討使小野好
古ニ源経基ヲ副將トシ豊前ニ下リ純友方ノ
諸城ヲ攻落シ上毛郡廣津山ノ麓ナル中津宮
ヲ鈴熊山ノ麓ノ參森ニ移シ其跡ニ城ヲ築キ
云々ト云事アリ是モ同社ナルヘシ然ラハ今
熊熊山ノ東ノ社ニ石祠アリ此ナルカ將異テ
ルカ闇無濱ニ鎮坐リナド云説ノアルハ取ル
ニ足ラス
○六所宮
中津新魚町ニアリ往昔ハ城内ニ在シヲ黒田

家今ノ地ニ遷サレシトソ祭神加茂稻荷松尾

祇園貴船天神ナリ此ハ神ハ天湍宮トハ異ナリ

ナリ産靈大神ト仰ルガ那岐大神緑起ニ源経基勸

請セル由云リ加來元竜ガ豊前名所記ニ細川

炭豊前六郡ノ神ヲ勸請セリト云レト推量ノ

説ナリ細川家ハ上ニ云ル如ク當國八郡ニ豊

後國速見國崎ニ郡ヲ加テ十郡領セラレタレ

八十郡ノ神ヲ配祭テ十社ト云リトノ説ナラ

ハ然モ聞エヌヘキヲ十郡ノ内別テ六郡ノ神

ヲ祭ルヘキ所以ナキラヤ扱細川家封ヲ肥後

國ニ遷サレシ時六所宮ヲモ彼國ニ裔ヒ祭ラ

レシトソ今熊本ニ六抑天下ニ六所五所七社

八社ト云社甚多カリ何レモ其國其郡ノ領

主地頭ノ仰キ崇ム神々ヲ合祭レルモノナリ

東鑑云武藏國六所宮○馬橋草紙未來記草紙

十ト武藏國ニ國府の合配宮ト云見エタリ

是モ諸社合祭

ノ社成ヘシ

○大江八幡宮
中津郭門ノ外萱津ニアリ縁起云豊前國下毛

天湍宮
末社ナリ

郡大家郷萱津八幡宮者應神天皇仁德天皇菟
道皇子之御靈也昔聖武天皇天平十二年自公
家進封田於宇佐宮是三國七郡十鄉等也補三
國者豐前豐後日向也稱十鄉者封戸向野幸嶋
高家葛原來繩安岐武藏大家野仲也後孝謙天
皇天平勝寶年中依宇佐宮御託宣每鄉奉勸請
奉申萱津八幡宮別而由緒正敷靈社也下畧○
封戸向野幸嶋高家葛原大家野仲又云大家宮
ハ豊前來繩安岐武藏ハ豊後ナリ者太玉命之御孫天畠命之御靈也昔神武天皇
之東征也建都橿原仍天畠命率舟置帆負彦佐

知二神之孫以齋鉏齋斧伐奥山之大木小木底
津磐根宮柱太敷立高天原甬千木高知互瑞
乃御殿奉仕又今豐前國御本紀伊國御本之二
所者是採宮杖齋部之所任之故謂之御本也春
云御本ノ事ハ上毛郡ノ下ニ云リ猶御本川
ハ多ク御本川ヲ下ス相方今モ此郡ニハ枝木
ハ多ク又古史傳ニ古語拾遺ノ天目一箇命筑紫
伊勢兩國忌部祖也古語拾遺ノ天目一箇命筑紫
更ニ考得ハ筑前國早良郡小額田郷アモ是
也筑紫忌部ハ此所ナル社アリ彦佐知命ヲ古訓ニ
且此郡佐知村ニ此所ナル社アリ彦佐知命ヲ古訓ニ
ヒコサトアレハ彼社アリ彦佐知命ヲ古訓ニ
テ其村名アリケナル也非又天畠命率齋部
軟由緒アリケナル也非又天畠命率齋部

作鏡玉木綿麻等神寶獻之遂天，畠命周覽天下
求豐饒地殖穀麻種於筑紫豐國，因斯曰麻殖。今
謂大家者訛也。重春云今ハ更ニ大家ヲ書リ人王五十
四代嘉祥三年五月庚辰神託我是天，畠命也。昔
從天皇降伏凶賊崇祭我則鎮護朝廷，以下以木綿
麻備吾社之驗者云々。豐前守常道真人兄守葵
之公家同年九月甲申以勅定令造殿舍號麻殖
天福神社仁壽元年正月庚子從朝廷奉正六位
上貞觀二年十月乙卯奉從五位下元慶六年十
月戊申奉從四位上後鳥羽院元曆元年豐後國

緒方三郎維榮等破壞當宮，押取神寶自爾以來
合祭八幡宮而奉稱大家八幡宮。又奉申八幡大
家宮。畠命

重春云天，畠命ノ齋部ヲ率テ穀麻ノ種ヲ栽
ニ事古語拾遺ニ見エタルハ阿波國ト總國
トノ二國ナルカ當國ニモ殖賜ヒニ成ルニ
扱三代實錄ニ貞觀二年冬十月三日己卯授
豐前國正六位上大富神從五位下云事見
エタリ大富人大八天字ノ一畫脱タルニテ
此麻殖天，富神社ナル事必セリ其ハ大富神

作ト云神名史籍ニ見エス且從五位下ヲ授賜
永仁二年月ノ同シキニテモ著キヲヤ但シ却
紀ニ己卯トアリ止ニハ草字ニ己下書テ己卯
ノ乙ト字移ノ似タルヨリ縁起ニ写誤ナル
從ナリケリ然ルヲ大富神ト云神社ノ此國ニ
無キヲ以テ上毛郡四郎丸村ナル宗像神社
ノ相殿ヲ鎮坐リトシテ其社号ヲサヘニ大
富神社ト改メ云フ由ナルハ傍痛キワサニ
合ナム扱當今ノ大江社地ハ往古トハ甚ク草
部リタル由ナリ然ルハ當年中津城モ築カス

金谷堤モ元リシ以前ハ大家川此川ノ事ハ
ト云ム社前ヲ流レ丸山今ノ城地ヨリ片端
テ呼シ惣社後ニアリテ松杉ナド神々シク
立テ甚美キ宮地ナリシニ城ヲ築クトシテ
丸山ノ木ヲ伐拂ヒテ市街トナシ金谷堤ヲ
築クトシテ大家川ノ流レヲ變テ田畑トナ
セルヨリ宮地ハコヨナウ狭ク成果テ昔ノ
面影タニ見エス成行シトゾ今萱津村東ニ
崩池トテ脚ヲ洗アルモ素ヨリ宮ノ境内ノ
リシ故ヲカレ扱又今蠣瀬村ノ内一本松ト

云所ニ石洞アリ鳥居ニ大江本宮ト云扁額
ヲ掛タリ是ハ昔年賀来元龍ト云者故アリ
テ設タリト聞ク然ルニ今ノ社司重松義一
ニ問ケルニ八幡宮ニモ天富神ニモ非ス新
田義氏ヲ祭レリト云リ往昔大江宮此地ノ
海濱ニ行幸有テ三日三夜祭祀ヲ執行セ御
饌ナド獻リシカラニ此邊ヲ冲宮トモ御供
瀆トモ云ヨレ縁起ニ見エタルニ概テ妄説
セルモノソ此ハ古ヲ知ラヌ徒ノ甚シキ非
説ナリ往古ハ今ノ瀆邊ヨリ南方二十町許

ハ總テ海ナリニ由ニテ中殿牛神宮夫一松
池永ナドノ村々ノ田字ニ瀆田塩田重石口
東風瀆ナド云海ニ着タル各甚多ク且地勢
ヲ視テモ著明シ況ヤ一本松ノ邊ハ方今ス
テ瀆際ナルヲヤ猶此等ノ一ハ別ニ記セル

○諸物アリ

○祇園社 稻荷社貴船神春 惠比須社

何レモ末社ナリ

○大江岡

是大江社鎮坐ノ地ナリ日野大納言資郷奉納

歌云、豊國の大江に周る神は、松も常え年

○大萬世に古く

扇池

○藤原津村東にあり即此社ノ御手洗ナリ

○龍王社

中津關無濱にあり祭神豊玉彦豊玉姫安曇磯

良ナリ磯良八字佐八幡宮縁起ニ皇后將征異

國于時白髮老人來奉導曰磯鹿嶋有安曇磯良

者曰召之借于珠滿珠於海神下畧○磯鹿嶋ハ

リ○姓氏録云安曇氏海神後也ト見エタル是ニテ此ハ住吉

大神ノ權ニ磯良ト顯レ給ヘル由ノ説アリサ

モ石ルヘレ磯良ノハ古表社ノ享保二年豊

日別國魂神ヲ合殿ニ祭レリ然リシヨリ豊日

別龍王宮ト稱ス然レシヲ古史傳ニ豊前國中津

郷尔今現ル豊日別宮ト稱ス社あり此社の傳

起小祭神と豊日別國魂神と比咩大神と二座

あり豊日別神と申すは伊邪那改命の靈神也

是比咩大神と申すは瀬織津姫神あり由委曲

不記を更云々交めく古社ある處ト書レタ

ル八事ノ縁ヲモ知ラヌ徒ノ説ヲ聞テ信用レタ

此謬ナリ既ニ寛文十一年社司重松氏公命ニ
依テ吉田殿ノ配下ト云ニ成レルカ其時吉田
殿ヨリ出タル裁許狀ト云モノニモ其神名見
エサルヲヤ且今ノ社司ニ聞ニ瀨織津姫神ヲ
祭レル事ナシト云リ如何ナル癡徒ノ偽作セ
ル傳起ヲ見ラレタルニカ不審モ事ナリケリ
因云此社ニ六所荒ニ上毛郡古表社ヲ合テ中津
三社ト稱シテ中津殿ノ祈願所ナリ又古表社
ヲ除キ大江社ヲ加シテ町三社ト稱ス又三社
ニ大江社ヲ加シテ四社ト稱シ義氏社ヲ加シ

テ五社ト稱ス皆中津殿ノ祈願所ナリ

祇園社 住吉社 巖嶋社 惠比須社 稻荷社

合拜星辰社

何モ未社ナリ

闇無濱

俗ニ龍王濱ト云萬葉集云「吾妹兒之赤裳泥
塗而植田平葺平收武闇無之濱」來留海子之
某等蒞置海松平波何國積武闇無之濱
賀來元龍云粟屋三石衛門小笠原合家男女教
十人同時見刑指刑処名地獄濱後生畧唱獄濱

地是也自寛文庚戌春生穴頼阿于神地届享保
丙申厥際四十六年矣暗无濱北海潮穿鑿墳墓
崩捲入海蓋一里十二町矣黑田侯時並置大巖
于濱涯三里號乱概石不徒禦海潮為要害也四
萬石時更名萬藏瀨于今大巖存于濱北一里十
二町外沙中有鳥云事跡考開國之昉日神都
于茲故舊事紀曰豐日別日
本書紀曰葦原中國因此唱而各此濱云々ト
ルハ太シキ安説ニテ取ニモ足ガレハ今ハ論
スハ
重春云此濱ノ冲ニ時々蜃氣樓ト云モノ立
ナリ此ヲ博物新編ニ華人以海市為蜃氣幻

影以山市為神仙幻境若果為蜃氣不應有于
山若果為仙終有現于夜何以不聞有燈燭山
市夜光海市而必現于無風有日之白晝乎是
海之為市非蜃山之為市非仙其實皆濕氣凝
空日光返照所致也云々トアリ

○義氏社

中津片端ニアリ應永九年八月新田義氏馬嶽
城ニテ卒ス男義高中津ニ來リ社殿ヲ作り父
ノ靈ヲ祭レリト云一説ニハ八幡宮ノ合殿ニ
祭レリトモ云リ

稻荷社

本社ナリ此社ハ後藤基次中津ニ在シ時ノ家
ノ鎮守ナリト云傳ヘタリ其家處ハ今ノ御本
屋ノ地ニテ義氏社ノ鄰ナリ猶後藤氏ノ事ハ
下ニ云ヘシ

○貴船社

中殿村ニアリ天種子命ヲ相殿ニ祭レリ扱中
殿ハ中臣ヲ訛レルナリ其ハ此村ニ中臣氏ア
ルヲ以テ知ヘシ但シ方今ハ畧キ天種子命ハ
神武天皇紀ニ行至於筑紫菟狹云々勅以菟狹

津媛賜妻之於侍臣天種子命天種子命是中臣

氏之遠祖也ト見エタル是ナリ雄畧天皇紀

原ト云地ノ見エタルハ姓氏録津國三島郡藍

連雷大臣命十三世孫云々トアル中臣藍連ノ

住ル地ニテ中臣モ藍モ同氏アル中臣藍連ノ

此中殿村近クニ藍原村アルハ決テ由緒アル

事トソ所扱今此村ノ隻祭ニ芋草ト餅トヲ献

思タルカマギト云モノニ餅ヲ入テ繩ヲ

以テ堅ク結セテ若キ男子二人ツ、裸體ニテ

抱キ出ルヲ又他ナル少年數十人裸體ニ成テ

我劣ヲト辛ヒテ彼カマキヲ攪破リ申ナ

ル餅ヲ取出シ又小兒等ハ餅投トテ餅ヲ投

テ典イフイルイ争イと拾イフイ甚イ珍イライカナル式アリ此
ハ豊後風土記ニ豊前國中津郡中臣村ニテ鳥
ノ餅ト化リ餅ノ芋ト化リタル故事ニ依レル
ナリ委イトイクイハ豊前此ニ因テ考レハ中臣村ハ
本中津郡ナリシカ後ニ其村人ノ此処ニ來リ
テ住居ルガ榮昌云々テ一村ト成タルカ將彼
処ノ中臣村ヲ此所ニ移シ、事有シカ今ハ中
津郡ニハ中臣村ナシ且此村ノ中津城下近ク
ニ在ルモ由緒アリケナリ扱今田ノ字ニ餅田
ト云アルハ祭ノ餅ノ料ニ宛タリシ田成ヘシ

備又此社ハ我仕奉ル大神ニ坐テ我家系ニハ
國前直祖兔名手ヲ祭レル由見エタルハ今現
ニ為ナル祭式ニハ合ヘル物カラ村名ニ負ヘ
ル中臣ニハ違ヘリ猶ヨク考ヘシ

○鶴岡八幡宮

牛神村ニアリ日本外史云康平六年八月頼義
按フニ牛神ハ氏神ノ義ニハ非ルカ古事記
臣トアルヲ傳ニ牛ノ自濁ヲ讀ヘシ他書ニ
自イカイトイアルイハナリ黒牛ノ如クナリ類モ志ラ
濁ル例ナリト云レタルガ如クナリ伊
豆手船ト萬葉集ニニ処書リ是モ同例也伊
勢國度會郡山田ニモ度會氏神社アリ大和國

平群郡ニモ紀氏神社アリ三代実録三モ氏
神ト云事見エタリ此餘ニモ枚舉ニ暇アラズ
然レハ牛神ハ氏神ニテ麻殖郷ノ氏神ニ坐ス
天富命ノ遠祖太玉命ノ此社ニ合殿ニ鎮坐ス
ナルヘシ今ハ其脚名可ヘ知レル人少シ歎カハ
シキ事ナリカシ走衆故實云今の世ハ産土の
産土の神をふすふと云い何小島其
一氏一氏の大脚神といそいそめ藤原家
祭リ賜ハ春田大明神是氏の大脚神
ふり氏神ふすふと云い何小島其

官幣宮

高瀬村ニアリ俗ニ官兵衛宮ト云ハ誤レルナ

リ此ハ官幣大神ノ宿リ賜フ故メ稱ナリ委曲
クハ仲津郡官幣宮ノ下ニ云リ

○白鬚社

新田村ニアリ祭神猿田彦命ナリト云神社啓
蒙ニモ白鬚神社在近江國志賀郡境打ウチカ下神祇
正宗ニモ打嵐白鬚大明神者猿田彦命也ト見
エタレト此ハ必少彦名神ナルヘクソ所思ル
其ハ土人此神ヲクシノ神ト云ヒ又痘瘡ノ神
符ヲ出スヲ以テモ察シタリ扱クシノ神ノ名
義ハ志都之若屋區志考等ニ委シク見エタレ

ハ今ハ云ス
○鶴市社

藍原村坂手隈ニアリ縁起云下毛郡逆手隈御
神ハ秋津彦秋津姫ノ二神ヲ祭レリ其後宇佐
神領之内沖代千餘町ノ田地ヲ湯屋彈正基信
相原内記有之一松六郎兵衛清氏萬田左京盛
堯小畑四郎右衛門宗重中殿八郎兵衛國直宮
永佐兵衛義成等七人ニテ支配セシカ堰ヲ築
テ高瀬川ノ水ヲ沖代ニ引シカドモ洪水ノ出
ル毎ニ流潰シテ塞キ得ズ爰ニ七人ノ地頭相

議シケルニ湯屋彈正申ケルハ昔ヨリ人柱ヲ
不立ハ必堰ハ築トメズト云リ畧各袴ヲ水ニ
入テ其袴ノ先ニ沈ミタル人ヲ人柱トスヘシ
○當ト云畧湯屋彈正ノ袴水底ニ沈ミケリ其家臣
古野源兵衛重定ノ娘ニ鶴ト云者アリ云家臣
等有ナカテ君ヲ人柱ニ立ニ井テスル事有ヘ
カテス私コソ女ナレトモ君ノ恩沢ヲ蒙リ奉
ル成長候ヘハ御身代致スヘシト云其子市太
郎十三歳ニ成ケルガ申ケルハ私コソ幼年ナ
レ氏男子ナレハ御身代仕ヘシト云如是テ母

子共八月十五日田人柱立ニケル即テ親子
 人名ヲ合セ取テ鶴市ト號シ水道守護神トシ
 祭ルケルト見エタリ此ハ保延元年ノ事ナリ
 ト云リ抑人柱ノ事ハ仁徳天皇紀ニ茨田堤ヲ
 築キシ時武藏人強頸ノ人柱ニ立タル事見エ
 タルガ濫觴ナリ通證云按名柄橋人
 ○薦社八幡宮
 大負村ニアリ祭神應神天皇比咩大神仲哀天
 皇神功皇后ニ坐リ兼和牟間鎮坐タリトソ三
 重ノ樓門アリ

祇園社 若宮社 黒男殿 何レモ末社ナリ
 薦池 三隅池トモ稱フ八幡託宣集云元正天皇養老

三年大隅日向國隼人等襲来同四年公家被祈
 申當宮之時神託我行而可降伏者云々當宮ト
 宮ヲ 諸男朝臣借以以何物為御驗可奉兼神興
 哉豊前國下毛郡野仲之勝境林間之寶池大菩
 薩之昔令涌出之水也八幡本紀ニ林間之寶池
 ナリ參訴彼処件勝境東西四廿餘町南北一十有
 町印田三餘町子午七八有町歟只眼界所及非

丈尺可數也靈木森然而不能入道藥艸幽深不
可運步又菓實雖多不觸手禽獸雖集不恐人欲
遠望則目眩不見欲近側亦心疲不覺遠而近近
而遠出林則日月之下入林則天地之外或時靈
蛇吹氣而晴天成雲或時化鳥放光而陰夜如晝
寶池為休雙嶋之切水以出北一池之形分波以
入南而三角地窄而勢寬挺綠而生薦王水湛滿
而自然清淨也中諸男抽誠祈申行幸御驗之時
初秋之天初午之日雲波滿池煙浪依渚漏返本之云
而雲中有聲而宣我昔此薦為枕發百王守護

之誓幾百王守護者可降伏凶賊也者依之諸男

奉薦此薦令造別屋七日參籠一心收氣奉裹脚

○枕云々行幸彼兩國畧下

重春云大隅日向一行幸右レ時ノ故事ニ因
テ宇佐宮行幸會ノ時ハ必此池ノ薦ヲ苴リ
御枕ト為テ神輿ニ乘奉リ八ヶ社行幸アリ
行幸アリハレハ其薦ノ御枕ヲ宇佐本宮ニ
納メ本宮ノ御枕ヲ下宮ニ納メ下宮ノ御枕
ヲ豊後國奈多八幡宮ニ納メ奈多宮ノ御枕
ヲ伊豫國八幡濱八幡宮ニ納メテ御靈タテ代ト

為奉事古例ナリキ今ハ行幸會々ニ絶外レ
ハ然ル事ナシ應永廿年宇佐宮寺造營日記
ヲ掃除シ三艘ノ御舩ヲ造進シテ云々昔御
薦薦ノ時召御舩云々大負や三角の池の
真薦草何をえに小扱此池中ニ三數アリ玉
澤銚澤鏡澤ト云又社地松林ノ四至ニ一里
湊ト云アリ往昔九國ノ人カラ以テ掘レリ
ト云

○猪山八幡宮

田口村ニアリ和氣清麻呂鄉配流セラレシ時
猪麩ニ来リテ清麻呂郷ヲ負テ宇佐宮ニ詣テ

猪ハ八面山ノ麓ニ入り又故其処ニ社ヲ建テ
猪山八幡宮ト稱スト云リ後紀本稿云清麻呂興
病即路及至豊前國宇佐郡栞田村有野猪三百
許挾路而列徐步前駘十許里走入山中見人共
異之云々二十箇年大宮寺又云云

○毛藏大明神

曾木村ニアリ土人ノ説ニ往昔子刀自賣ノ守
神ト云フヲ掘出テ其ヲ毛藏大明神ト齋祭レ
リト云ヘド此ハ謬傳ナルヘシ宮守ト子刀自
賣ノ夫妻ヲ祭レル事必セリ守神トハ子刀自

賣ノ七夫ヲ慕フ餘リニ其容貌ヲ鑄造テ神床
ニ置テ生時ノ如ク朝夕拜シ仕ヘタリシ像成
ヘシ後紀本馬ニ天長四歲春正月丁亥節婦豊前
國人難波部首子刀自賣免其戶課役田租終身
○勿事子刀自賣年十有八歲適下毛郡擬大領蕨
野勝宮守二十箇年夫宮守死去子刀自賣獨守
空室十歲于茲遠近庶士求之不少而有諒同穴
無心再醮愛亡夫之遺衣置獨守之牀上朝夕每
見追攀不止亦得甘珍必供亡靈隣里無不稱歎
仍表門閭以旌貞操也トアル以テ考レハ其像

ヲモ作りテ且暮慕ヒ仕ヘ參ラシ、事知ラレ
タリ扱毛蕨ハ下毛蕨野ト云ヲ上下ヲ省キテ
稱ルニテ即宮守ノ夫妻ヲ祭レル事疑ナシ但
シ古クヨリ祭レルハ子刀自賣ニテ宮守ハカ
ノ金像ヲ掘出テヨリノ事ナルヘシ

○雲八幡宮

宮園村ニアリ傳記云大寶三年出現柴ノ秀倉
ヲ建ツ圓融天皇ノ御宇一品舍人親王ノ御孫
肥後守道推卿ノ御嫡男少納言清原政高朝臣
天延元年清淨ノ靈地ヲ撰ヒ遷シ奉ルヘシト

テ寶殿ヲ唐筈山ノ麓旭川ノ川上ニ遷シ祭リ
雲八幡宮ト稱ス
妙見社

○此社元一戸城内ニ在シカ彼城破却ノ後此処
ニ遷セリトソ慶長十三年細川^忠侯ヨリ寄附
セラレシ社領ノ黒印ニハ一戸之御城之妙見
雲八幡兩社ヘ云々ト見エタリ

雲^{シメ}社^{モリ}

八幡宮鎮坐ノ地ナリ夫木集云^ツも^ツ白^ツ此^ツ今
翁^ツ行^ツ末^ツの^ツ雲^ツの^ツ社^ツい^ツく^ツ度^ツ秋^ツ此^ツ木^ツ末^ツ深^ツ也^ツ
正

位知家

○午^テ斧^ヲ立^タ八幡宮

白木村ニアリ宇佐宮第三殿造營ノ時此社内
ナル楠ノ本ニテ杣始ノ式アリ故^カ此^コ処^コヲ午斧
立ト云トソ杣始ノ式ハ築城郡傳法寺上毛郡
河底村ノ処ニ云ルガ如シ應永廿七年宇佐宮
寺造營日記ニ三殿杣始在之下毛郡^{ウツ}替^ヤ遷^ヤ河内
一瀬伊乃倉前楠也ト有テ替遷ヲウスキト假
名ヲ加^カタリ

真坂洞

此社ノ山續ツミキナリ真坂社トテ石祠イサテ立リ洞ハ
亡シタリ細川家臣何某ノ歌トテ人口ニ膾炙セ
ルアリ云々豊國トヨクニノ古坂此同此宮ありし
くこけ沖のふ人歎了夕我祖父重名ガ日野大
納言資郷ニ乞申シケルニ詠給ヘル御歌ニ云
御新ミヤふゆのふ書本おひつれく古坂の洞を
う山のり

○鶴岡八幡宮

平田村ニアリ建久六年成恒近江守頼俊勸請
セリ一説ニハ建久九年野仲二郎重房ノ勸請

○大神宮

大久保村ニアリ祭神天照坐皇大神ニ坐テ大
久保金吉嶋宮イサノミヤ掘山路ノ五ヶ村ニテ祭レリ
扱此金吉ノ枝郷ニ伊福ト云ガアルニ據テ熟
考ルニ姓氏録ニ伊福部宿福尾張連同祖火明
命之後也ト見エ古史傳ニ式部海津國嶋下郡
ニ新屋坐天照御魂神社尾張國神社帳カ
海部郡新屋神社此餘教多例ヲカト里人
ト天照大神トイヒ天照國照彦火明命カ

ト委曲ニ辨ヘラレタルヲ以テ按テ此地ナ
ル大神宮モカノ伊福部ノ遠祖大明命ニテ往
昔ハ天照御魂神ト云ヒケムヲ天照ト申スニ
因テ太神宮ト思ヒ混ヘタルニハ非ルカ抑火
明命ハ大御神ノ石屋戸ニ籠リ坐シ時御鏡ヲ
鑄造給ヘリシ伊斯許理度賣命亦名ハ天香山
命ノ御父ニ坐マシテ平田翁モ云レタル如ク
鏡ニ謂アル神ナルヲ思ヘバ金吉ト云村名モ
由緒アリテ聞ユマ夕古史傳ニ景行天皇紀ニ
十七年ノ下に日本武尊ノ熊襲ヲ取ル往坐る

時小美濃國の善射者身彦公ト云を召ク御供
尔連給ふる事あり此を天孫本紀尔考る尔身
彦公も大明命十四世孫尾治身彦連とあり即
是なり美濃と尾張古と後とハ是く境替リ
國人等云ヘリキト云レタルニ據テ按テ景
行天皇ノ御木川上ナル熊襲ヲ此熊襲ノ任リ
奥ナル鎌田處ト云ニテ委討賜ヒハ十二年
ニテ日本武尊ノ身彦公ヲ率テ熊襲ヲ討テ往
坐シハ二十七年ナレト後ノ時モ此御木川上
其餘ニモ當國ニ是彼叛奉レル徒等ヲ討賜ヒ

此事ノ有ケムヲ御紀ニ記シ洩サレタルニハ
非ルカノ田川郡三第彦公社マタ第彦公モ然ラ
ハ第彦カ或ハ其家族ノ人等ノ残り居テ伊福
ラ氏ト為テ遠祖ヨリノ鏡作ヲ業トナシケム
カ其鏡ノ真金ヲ取レル処ヲ金吉ト云ヒテ其
遠祖ナル火明命ヲモ齋祭レルモ有ナムカ
後人尚能考ヘテヨ鏡作造水注直六人部連丑
田川邊連笛吹連等百本部連檜連竹田連行
フヘキ事ハ非ルカ此伊福ニ隣リタル豊後國
ノ郡名ノ玖珠ハ彼國懸ノ風土記ニハ洪樟木
ノ懸ナレド若クハ彼國懸ノ畧言ニハ最初ヤ
國懸ハ本國ノ大社ニテ岩屋ノ時ハ此神名
製造奉リシ御鏡ニテ内ノ一ニ座レハ此神名

ニ由アル義ノ稱ニ檜隈ト称フルカ當郡ニ隣リタ
ケル豊後日田郡ニ稱ニ檜隈ト称フルカ當郡ニ隣リタ
ニテ云フハ此ハ試ニ

○妙見社

落合村上津野ニアリ

○松尾社

永添村ニアリ

○八面山權現

田口村ニアリ神功皇后ヲ祭ルリ此山ニ籙谷
ト云アリテ矢篋竹甚多レ此ニ拠テ按フニ俗
ニ箭山ト云ソ本名ナルヘキ然ルヲ何方ヨリ

望テモ形同シキカ故ニ八面山ト云トノ説ハ
附會ナルヘシ扱事跡考ニ萬葉集ナル模ノ立
荒山中ノ歌ノ荒山ヲ此山ナリトセルハ甚々
笑フヘキ説ナリ此ハ夫木集ニ荒山ハ豊前ト
アルカラ推當ニ云タル物ニテ誤リニ誤リヲ
重ネタルナリ荒山ハ山名ニ非ル事云モ更ナ
ルヲヤ近江國僧ノ立細カ萍の跡ニ石見國
ハ下計昔より草刈の録を入さる處ありと
小八頭蛇居ト見エタリ此ハ八頭蛇ヨリ出
タルハ山各ナルヘケレト我豊前豊前神跡圖考
云世傳平相國撰政時豊前為内府封國見下小
笠原長

勝公所著羅漢寺紀行
上風偃下草羅漢寺長谷寺各有内
漢寺紀行
子來經營之當安德天皇狩于豊前源延尉懼平
族席卷九國而謀恢復竊遣伊弉義盛候伺地利
興軍實義盛微服間行發一奇計使平宗盛愕然
膽落焉加旗復令九國精兵駛離反而後源延尉
率舩軍直入于下毛郡良說而搏髀曰平族弗憑
八面山天險而都于物浦四面受敵我知其無能
為也新城于野仲鄉勇山莊號大旗城陽為屯田
之謀以威敵軍勢大振鞭笞九國群雄以擊平軍
大捷于壇浦矣延元元年大將軍尊氏逃於九國

入宇佐大宮司館而後軍八面山以禱再攀于神
功皇后廟傳記及三輪山市翁和歌記以創建
二百有餘年嶋業也天正戊子年黑田侯城于
中津川原八面山元而府城成焉以黑田侯武勇
而不伐操樹蓋以有奇怪也故存于今豈可誣哉

國見石 脚池 野舍 山園 藤 菰 藜 而 新 武 城

重春云社内大寶下德治卜人古碑アリ丈
八前豊遺文ニ出スヘシ

○自性寺

中津ニアリ古ハ萬松寺ト云シカ延享年間自

○性寺ト改メタリ中津侯ノ菩提寺ニテ丹後國

宮津ヨリ從テ來レルナリ小笠原家ノ時ハ法

性寺ト云ルナリ

○東林寺

中津ニアリ聖一國師ノ開基ナリ往昔ハ七堂

伽藍アリシト云

○地藏院

中津ニアリ古刹ノ由ニ聞ユレド年久シク無

○服

位ナリシカハ宗寺開基ナト惣テ審ナラス本
尊ハ地藏ニテ行基人作ト云長三尺計ノ荒木

作ニテ實ニ古物トゾ思^ホユル

○明蓮寺

中津ニアリ往昔ハ今ノ城地ニ在^レト云

○正行寺

永添村ニアリ宇佐郡記ニ天正七年野仲兵庫

多勢ヲ催^シ云々末弘城ニ押寄末弘對馬守正

○東行剃髮シテ名ヲ妙云ト改メ嫡子四郎妙秀ト

改メ降テ城ヲ渡ス即跡田主水ヲ城番トスト

見エタリ其後城破却^シテ其趾ニ寺ヲ建テ先

祖ノ名ヲ取テ正行寺ト云リトゾ

○長久寺

福鳶村ニアリ宇佐郡記云天正十六年三月黒

田長政福鳶ヲ攻ム城主佐渡守降參剃髮シテ

祐了ト改名シ京ニ上リ教如上人ヲ頼ミ長久

寺ト称ス

○法華寺

永添村ニアリ續紀云天平十三年正月乙巳詔

曰亘令天下諸國各敬造七重塔一區云々其寺

名為法華減罪之寺云々又云天平十九年十一

月己卯詔曰朕以去天平十三年二月十四日遍

詔天下諸國國別令造金光明寺法華寺云々諸
國司等急緩不行或處寺不便云々是以差從四
位下石川朝臣年足從五位下阿倍朝臣小嶋布
勢朝臣宅主等分道發遣檢定寺地并察作狀限
來三年以前悉皆令了云々其儒寺尼寺水田者
除前入數已外更加田地僧寺九十所尼寺四十
所便仰所司懇開應施畧下又云天平二十一年秋
七月七日定諸寺墾田地諸國法華寺寺別四百
所下云事見工夕リ此僧居二寺ノ一ツナルハ
今田字ニ施餓鬼田伽藍田塔田十ト云アリ

○長谷寺

秣村ニアリ豊鐘善鳴録云釋三界不知何人也
神龜四年春造豊前下毛之大久山窟ト幽棲遲
鳥窟則仁聞大士安十一面大悲像之靈區也界
創立梵宇扁曰長谷住之數十年道行高潔列人
仰止一日告邑民曰我化緣已盡將還本土汝等
為我築一瑩于山下植以櫻樹我為汝等垂蔭永
久言畢忽亡所在邑民知其權化修如其言其樹
老朽今尚存焉

○羅漢寺

...

○跡田村ニアリ和漢三才圖會云耆闍崛山羅漢
寺在宇佐之西北五里寺領百石釋迦文珠普賢五百
羅漢及千體地藏總三千七百體皆石像也開山
圓龕禪師彫刻之仙人名逆流健順者忽然馳來
合カ力一夜中全成其靈崛本堂皆希有精舍也春重
云宇佐之西地ト云ハ誤ナリ南西ニコリ縁起
在レ寺領ハ百三十石ニ斗九升八合ナリ縁起
云相傳空也上人古羅漢崛ニ來リ錫ヲ留ム其
後豐後國田淡郷ヨリ圓龕昭覺禪師此山ニ來
リ浮圖ヲ搆フ又逆流健順大阿羅漢石佛ヲ彫
刻ス人皇九十七代光明帝曆應元年戊寅十月

○朔石佛悉成リ安置供養アリ耆闍崛山羅漢寺
ト號ス爾來健順終ル処ヲシラスト云
○豐前紀行云五百羅漢石佛ト云とも或人云
皆練物形ト其刻め侍工誠ル奇妙を究め
里一佛トシテ其形各異あり又其中ル魚ニ煤
けニ々々大あり佛あり水あり洗ハ々々常小
魚れニ々々あり是練物あり故ルあり見也
○阿蘇ノや岩屋ハ人カキキ穿スルルルル氷ハ自然
の天工也古羅漢ト云所是又大岩の數多峙
立海あり天然の石橋あり凡此処ト希有あり

靈窟なり予諸國を多く遊觀せし未^レウヤ^ク
此奇絶あり所を見侍ら^レハ未^レウヤ^ク
阿彌陀^ノ峯 屏風巖 掌返^{テハヘシ} 鍼耳^{ハリミミド}所 捨杖^ノ 達
磨谷 古羅漢山

○久福寺

平田村ニアリ天長四年子刀自賣ノ創立ナリ
ト云此女ノ鏡宮守ノ鏃ナド云モノ今モ傳レ
リ

○檜原山

律民庄ニアリ豊鐘善鳴録云釋正覺越中人天

平勝寶四年秋遊歷関西抵豊前檜原山瞻其靈
秀卓居焉^中一夜夢有一老翁来告曰我是白山
權現也云々鳩工經營教月而成扁曰正平寺覺
以宝龜五年正月廿一日遷神覺堂所自刻石像
今猶存焉

○賢女嶽

曾木村^ノ蕨野ニアリ節婦子刀自賣ノ住居リシ
家処ニ近クアルカラ山名ニ貞タル成ヘシ

○木子嶽

戸原村ニアリ山容ノ菌^{キノ}十セル故ノ名ナルヘ

○御木川

今廣津川ト稱フ是ナリ景行天皇紀十二年熊
襲反ニ奈ニ有賤賊者二曰耳垂殘賊貪婪屢略
○御木人民是居於御木本川上其所據要害之地ト
アリ丹羽氏暁ハ犀川ノ邊ニ三毛門村アリ是
御木川門ニアル故ノ名ニテ御木川ハ犀川ナ
リト治定ナタリシハ由アリゲニ聞ユレト臆説ナリ
犀川ハ上毛郡求菩提山ヨリ出テ水源五里許
ナル小川ニテ要害ノ地ト云ヘキ所モ非ルヲ

ヤ又豊後風土記ノ箋釋ニ筑前國三池郡ト書
ルハ別ニ妄説ナリ其ハ御紀ノ前後ノ文ヲ照
シ見テ察ルヘキナリ扱上毛下毛ハ上ニ云ル
如クカムツミケシモワミケニテ上下ニ分レ
タルハ後ノ事ニアルハ往昔ハ御才郡ト
ソ云ワラメ其郡内ニテ此川モ大川ナル故ニ
郡名ヲ負セテ御木川ト云シモノナリ惣テ郡
ヲ山川ニ負セタルハ大方ハ其此川田川郡彦
郡内ノ大山大川ナルヲ思ハ
山ヨリ出テ水源十三里許ニテ要害ノ地モ少
カラサル也又御木ノ名義モ大江宮ノ下宮杖

ヨリ出タルガ此川ヨリ日毎ニ筏ニ作りテ下
ス材木ノ夥シキヲ見レハ御木ノ地名ノ根元
ニテ河名ニ負ルモ直ナリトソ所思ル扱彼土
蜘蛛耳垂カ住リシハ何地ゾト云ニ柿山村ノ
土岩屋ト云処ノ山腹ニ昔土蜘蛛ノ住シト云傳
ヘタル窟アリ横四間深十間ニモ餘ルヘシ其
奥ニ穴シ登リテ又小キ穴アリ穴中常闇ニテ
得行難シ里人ニ問アニ先頃松火ヲ燃シテ入
タルニ廿尋計行テ又上ト中ト下トニ穴ニア
リ其処ヨリ奥ヲ究メシ者ナシト云リ此山麓

ナル川即山移川ニテ柿坂村ト杉畑村トノ間
ニ流出テ廣津川ト一ニ合リサレハ御木川上
トモ云ヘキ所ニテ土蜘蛛ノ住シハ此土岩屋ニ
テモ有ヌヘシ但シ此窟ハ濕氣アレハ人ノ住
ヘクモ覺エスナド或人ハ云毀タレト豊後風
土記ニモ昔者此村有土蜘蛛之堡不用石築以
土因斯曰無石堡ト云事見エタレバトカク云
ヘクモ非スト思定メテ此考ヲ西田翁ニ語リ
ケルニ寔ニ確説ナリト諾ヒ如是テ一歳ヲ経
テ翁豊後日田里ニ遊ヒテ歸ルニ訪來テ語り

ケテ夕山國ノ奥ニ甚イト大ナル石窟アリ路傍ヨ
リ遙ニ見ワレト老足ノ疲勞ヲ恐レテ登見カ
リキカノ土蛛ノ窟ハ此ニハ非サルカ行見ヨ
カシト語りタリキ此物語ヲ聞テ例ノ心止難
クテ足結アテ小鈴振ラハヘテ頓ニ見ニ物シケル
ニ此ハ金吉村ノ枝村伊福ノ奥ニテ石窟ハ豊
後國玖珠郡下田村ノ内ナリ下河内村ヨリ十
下許西ニ當レリ穴ハ南ニ向ヒテ其廣サ横三
丈豎七丈許高サ六七間或ハ四五間許ノ處モ
アリ内ニ清水モ湧出テ住居ニ便亘タナリ山

上ヨリ穴口ニ甚イト大ナル藤蔓懸リテ花ノ時
ハ然サソト想像ル、計ナリ中昔鎌田隼人ト云
人住リシトテ窟内ニ鎌田八幡宮ト云小社ヲ
建タリ故土人ハ鎌田窟トノミ云テ上古土蛛
ノ住ケム事ハ口碑モ絶タレト實ニ賤賊ノ住
マムニハ甚要害善キ地ナレハ先此処ナラム
トソ思定ムル抑此所モ廣津川ノ本モトツ川上ナ
ラネド此石窟ノ下ナル溪川金吉村ノ下シメカ
テ廣津河ト一ニ落合オチアヘハ御木川上ト云ムモ
何云事カ有ラム扱此廣津川ハ金谷堤ヲ築カ

カリシ以前ハ下宮永村ノ近境ヨリ中津ノ市
街ヲ廣ク流レテ海ニ出ルヲ中津川ト云ヒ大
江社ノ南東松江繩子ノ邊ヨリ令レテ宮田村
此村名中津川ト大家川トノ東ヲ經テ鵜瀨
間ニアル故ノ名ト知ラルノ東ヲ經テ鵜瀨
村ト牛神村トノ間ヲ弘ク流レテ御供瀨ニ出
ルヲ大家川ト云ヒ此瀨ノ邊ヲ今又廣津村ノ
邊ヨリ小祝浦ノ西ト東トニ岐レテ二川ト成
テ海ニ出ルヲ廣津川ト云ヒ又玉津川トモ云
シ由ナリ玉津川ノ事ハ古表社此川々ノ惣名
ヲ上世ニハ御本川ト云シ物ナリ備中津稱呼

考ニ上古則无觀永堤中津川届此而東端流喧
唳聒々驚耳屈曲縱橫廣數十町北臻大家後入
周芳洋自三郷觀之恰如望洋洋大之稱河原之
呼非虚談也重春云三郷ト云事聞エ不此邊ハ
大ハ代字ノ方ナルハ上ノ古ハ此邊都テ洋中
ナリシヲ由トセシヨリノ名トシテルレハナ
リ代ハ苗代ナトノ是以黑田彦城大扇城ト三
代ト同シカレトシ郷也中津川在西大家川在東南周芳洋在北地
利介然眺瞻景美登荒山而遙下着之江海擁大
扇城猶蜃樓湧揚於瀛海云重春云荒山ノ事ハ
八面山ノ処ニ辨ヘ煇當三齋侯閑居于本府新為外郭外郭大成之

後亦築觀永堤此役也侯以軍制命諸士及步卒
自行軍將令指麾多々構本陣于上少路聯金屏
風作壁張黃帷幕為牆先瞰而出戴星而入衆遙
望之金壁輝朝日黃雲映夕陽是以號金屋茶亭
自時以降遂為地名屆今金屋云者是夫遺驗也
直春云上少路ノ事ハ隄成之後大家川忽變萬
中津城ノ処ニ云リ 隄成之後大家川忽變萬
分之一矣涌々為屋々平遠東南郭亦古槐迹云
々金屋南田今亦號証江也據古考之証江也昔
俗唱本川之修字也興哉號証江之言可謂雅而
實矣歷年之後証江作小江也証之吳音興小之

漢音國音昏通為不辨二音之徒易字訛言後也
猶金屋作金谷觀永邸更宮永村之類而其為訛
言也一矣ト云リ此考地理ノ事ヲ云ルハ當レ
ト稱呼ノ解ハ所謂ハ牽強附會ナリ宮永ノ
稱ハ渡邊明カ所持セル應永十年ノ田畠坪付
ニモ見エ字佐宮寺造營日記正長二年大内氏
參宮ノ条ニモ彌勒寺領云々下毛郡宮永八町
○金被返有寺家畢トモ見エタルヲ如何トカセム
○日野大納言資郷歌云リ彩々以彫々意底津
此川而平さるる名節之心也

人しあつさふヤ丁ふいぐすしむ令存此河の
ゆふのゆきおのりて流るる

○金剛川 水原ハ廣津川ナリ藍原村三口ヨリ岐レテ宮

永村ヲ歴テ島田村ヲ東ヨリ北ニ流レテ海ニ
入ル夏時ハ螢多シ

○柳川 水原ハ金剛川ニ同シ三口ヨリ分レテ宮夫村

ノ東ヲ経テ自見村ノ西ニ出テ海ニ入ル此川
側ニ揚柳甚多シ故川名ニ負ルナリ然ラ此河

東ニ鋪矢堂ト云地ガアナルニ据テ或人ハ昔

鋪矢ノ流レシ事有ルガ故ニ矢流川ノ意ナリ

ト云ルハ鎮西文書編年録ニ柳山成ヘケレ

ト拙キ説ニテ云フニ不足

○大丸川 水原ニアリ一ハ八面山一ハ深水山ヨリ出テ

盛山村ノ邊ニテ一合レ北ニ流レテ海ニ入

ル

○間々濱 田尻村ノ海濱ナリ萬葉集ニ佐婆海申忽遭逆

田尻村ノ海濱ナリ萬葉集ニ佐婆海申忽遭逆

風漲浪漂流經宿而後幸得順風到着豊前國下
間毛郡分間浦於是追坦艱難悽惻作歌八首重春
防國和名波郡十周於保伎美能美許等可之故
美於保夫禰能由伎能麻爾末爾夜杼里須流可
母右一首雪連字麻呂重春字良未欲里許藝
許之布禰平風波夜美於伎都美字良爾夜杼里
須流可毛重春云於伎都美字良ハ沖ノ浦ニテ
浦西ニ沖代此餘ノ六首ハ畧キ又ト見エタル分
間ヲ昔ヨリ誰モワレト訓ルハ如何ソヤ分ヲ
フト訓ヘキヤウナレワカルワカツノカルカ

川ヲ省キテワトノ云事古言ニ例ナキ事ナ
ルヲヤ故按フニ分ハ万字ニ書體ノ似タルヨ
リ書違ヘシ物ニテ万間ナルハク所思扱此邊
ハ方今海淺ク成行テ大舩ノ着ヘクモ非スナ
リニタリ又同集ニ以豊國之間之濱邊之愛子
地真直之有者何如將嘆トアルヲ仙覺抄ニ間
之濱邊之句不審聞之濱邊欣トイヒ畧解ニモ
聞人誤ト定メシハ非ナリ今一字間或ハ万字
ナドノ脱タルヘクノ所思何トナレハ同集
ニ衣袖之真若之浦之愛子地間無時無吾憲鑠

ト云歌モ有テ此ハ其歌ト同類ニテ有ト云詞
ヲ重ネタル歌ナリケリ然テコロ詞モ變々ク
ハ通ユメレ且此濱ハ東ハ豊後國姫嶋北ハ周
防長門ノ山々西南ハ我豊前ノ山々ヲ見放ケ
甚々面白キ地ニシテ別テ砂子ナド清ラニ美
麗ニキ事聞之濱ノ及フヘクモ非ス往昔ヨリ
世ニ其名ノ聞エテ間々濱邊之砂子地ナト詠
ムモ泉ニ理ナニナム百ケル聞之濱ハ愛子ト
云フ砂子モアラヌ所ナリ

○荒瀬

豊前紀行云樋田の先尔大堰あり其処を荒瀬
と云其下尔岩山の内を切通一町二町或を
三町或を十間二十間計岩の間を水の通流処
所々処々小横穴あり是掘る人の呼吸を通を
むる為ふり奇異の志々々天工の自然尔あり
ほの如く是貞享三年十月尔限をせし処六百
三十間溝の長三里十二町余中津士竹内求馬
とく千石領する士總司とく片桐九大夫とく
此より先中津領草本の金山の奉行とく士あり
り備ふ此の計いあり金堀尔掘せけり

エの頭領内海作兵衛も又加^マと下毛郡中及
宇佐郡也此井午の水懸^ミ五里計下の新田
亦^カ溉^カ又島を水田^ミ尔をむの為とのヤ

○三日月池

巖野ニアリ池名ハ三日月ノ形ナセル故ニ負
セタルナリ此池ノ邊ニ竹林アナルガ其竿何
レモ三日月ノ形ナシテ圓カラス奇シキ事ナ
リ此邊ヲ節婦子乃自賣ノ住処ナリキト云傳
ヘタリ扱^ハ往昔ヨリ^ハ松^ノ枝^ハ此^ノ緑^ハ也^ト傳^ハ
此^ノ池^ノの^ノ形^ハと^ハあり^ト云^ハり^ト月^ハ此^ノ池^ノト^ハ云^ハ歌^ヲ子^乃

自賣ガノトシ^テ三日月此池の^ノ形^ハと^ハ云^ハ身^ノ

き^ハ君^ノの^ノふ^とを^ハと^ハ神^ノふ^ハ此^ノノ^ノ身^ノト^ハ云^ハ歌^ヲ

宮守ガノトシ^テ往々物^ニ記^セレド如何^ナアラ

ム千載^ノ往昔^ノ句^ヲ調^トモ覺^エスナム

○列貫

通田驛ヨリ跡田村ニ通^フ道ノ洞ナリ釋敬雄

カ山陰^ノ鑿^キ道^ノ碑^ノ銘^ニ跡田之山^ノ嶺^ノ鳥^ノ千^ノ峰^ノ跡^ノ田^ノ之

水^ノ衆^ノ澗^ノ所^ノ鐘^ノ山^ノ水^ノ之^ノ美^ノ會^ノ誓^ノ維^ノ同^ノ有^ノ石^ノ當^ノ路^ノ高^ノ聳^ノ

碧^ノ空^ノ絡^ノ繹^ノ行^ノ旅^ノ乃^ハ哭^ノ途^ノ窮^ノ牽^ノ鎖^ノ躡^ノ棧^ノ寒^ノ栗^ノ徹^ノ躬^ノ若^ク

失^ハ一^ノ步^ノ定^ノ墮^ノ水^ノ中^ノ懿^ノ哉^ノ禪^ノ海^ノ能^ノ勤^ノ其^ノ攻^ノ鉅^ノ鑿^ノ巖^ノ壁^ノ

人感其哀財施力施恊心茲從經三十載克遂其
功長三百步並騎而通豁開鑿道勝彼鬼工持地
平道此續芳蹤盛功勒石永劫無終トアリ序文
スキ禪海ハ江戸淺草ノ人ニテ此道ヲ開キハ
寬延ノ頃ナリト云

○如水井

大塚村ニアリ如水公此処ニ館ヲ建ラレシ時
掘レル井ナリト云

西明寺井

池永村吹上坂ノ東ニアリ西明寺北條ノ天下

○三宮堂

ヲ歴覽セシ時暫シ此所ニ高居セシ由云傳ヘ
タリ西明寺ノ事ハ既ニ京都郡西恩寺ノ條ニ
云

池永村内ノ地名ナリ往昔三人宮有シト云或
説ニハ鋪矢堂ニテ鋪矢土中ヨリ出タリト云
又寒江堂ト云三位矢堂ト云書タルアリ何レ
トモ定難シ今ハ辻堂ヲ如キモノアリ
雲雀床ハリカトノ日本又對身鎌三對ニ云云三羊外西
池永村ニテ此処ニ茶臼山ト云小高キ塚アリ

冬ハモ

此古木ノ松^等立^等土人ハ懷良親王ノ墳ナリ
ト云大日本史懷良親王傳云延元三年任征西
大將軍鎮撫筑紫云々世稱鎮西宮或九州宮阿
蘇宮肥後宮相傳懷良屏居八代郡小野薨即葬
焉娶菊池武重女生男爵松丸後曰良宗子孫連
綿存于今焉ト見エタ^ハ此地有ルハ思^カツ
○三カナシ薨賜ヒシハ嘉慶二年三月十八日ナリ
又名和氏紀事ニ後醍院系譜ル親王八代郡小
野郷ル薨トイヘリ小野高田の總名ルヤ重
綾牧園進士ル其故址を問ヒに進士嘗ク尋祢

ト云とあり八代郡高田より一里許ナリ
悟真寺村あり村ル寺あり即悟真寺ト云小是
親王の廟あり寺ル親王此御影を藏す鎧直衣
亦御鉢巻をめぐ御後ル日月打ノ錦旗を
シハ壯氣觀奉^ルありといヘリト書ルニテ委
シク知ラレ又同書ニ鎮西文書編年録ル按
延元二年後醍醐帝遣立上宮三位中將某於九
州為其大將軍而左兵衛某出納其令旨蓋其後
薨於豊前豊後之地ナリ詳土人傳云豊前國中
津^ヤ箭^ナ流^カ川^ハ上^ニ雲^ハ雀^カ床^ト是征西將軍住處有歌曰

空のふも此は、
此處に昔とありて、
天皇第五の皇子兵部守良を称す、
此宮元弘の初近江の伊吹山の下、
賜ひし、同三年五月、
を番場峯に要し、
平記に見え、
四年より二年前、

知其所終と見也ト書リ、
下賜ヒテ、
良親王ノ下、
ト然ル事無トモ云難、
トテ行テ、
網ノタルカ、
坐ス如、
歴タレト、
貴人ノナルベケレハ、
クナム

○如水原

大丸山ニアリ慶長五年九月九日黒田侯豊後
國ニ軍ヲ出シ、時陣ヲ覽テレシ所ナリトソ

○七隈

中津ノ近隣ニ往昔ヨリ七隈ト云傳ヘタル地
アリ上毛郡ニ雄隈日隈高隈赤隈鈴隈ナリ下
毛郡ニ坂手隈雜掌隈ナリ雜掌隈ハ名寮レテ
何処トモ知レズ或人ハ弁立ナリト云リ筑
前太宰府ノ邊ニモ雜掌隈ト云処アリトソ
式云太宰管内
云々當國雜掌

○團子石

池永村ヨリ出ツ香月牛山云豊前國下毛郡池
永村有古城址掘レ之有如柑子或竜眼子之太者
累累々而出非石非土其色淡黒或淡赤不一斫之
其内紫紅色恰如鮫裏餡顧本草所謂太一餘糧
之類也土人謂之團子石

○靈塚

中津城ノ北門ノ外ニアリ此誰塚墓ナルカ知
レズ或説ニ永享二年新田義氏牢佐宮ニ參詣
卜補レテ中津川ニ出下毛牢佐ノ勢ヲ催レ大

内下慥シ合テ菊池ヲ亡シ永ク當國ヲ領セム
事ヲ謀リケルニ菊池武成是ヲ聞テ中津川ニ
相寄セ義氏ヲ討取レリ其墓城内ニアリ是ヲ
玉塚ト云トアルハ誤ナリ義氏ハ應永九年八
月馬嶽ニテコソ薨セラレ又一説ニ元禄
十五年冬ノ季ニ成テ夜々知真尼ノ屋敷ニ猛
火出現ス此処ニ古ヨリ大木ノ松アリ是ヲ玉
塚ト云義氏將軍ノ古墳ニテ落葉モ不取神ト
崇メ津城ノ守護神タリ修理大夫殿御代ニ今
○國村九左衛門居住之節彼松ヲ切り薪ト成シ其

身追付宰人トナルトアレト是又謬ナリ但シ
知真尼ノ屋敷トハ何処ヲ云ニカ詳ナラス義
氏ノ男義高ハ大友家ト戦^タテ中津ニテ討死
シ其墳ハ三ノ丸北側ニアルヨシ物ニ見エタ
リ若クハ此墳ノ事ナルカ豊前名所記ニ北門
ノ東南ニ小祠アリ今ハ人家ノ内ニアリ又吉
祥寺ノ前西方ニ玉塚トテ古跡ノ石塔アリト
云リ然レトモ玉塚ハ決ク北門ノ外ナル塚ナ
ルヘシ中津記ニ細川家ノ時マテハ參詣スル
者北門ノ方ヨリ通路スル也小笠原ノ時代ニ

至テ社寺ナキ故歟自然ニ断絶ストアリ今ハ
藩士奥平吉左衛門屋敷ト成テ小祠猶存レリ
中昔ヨリ中津ノ邊ヲ玉塚庄ト云

○後藤又兵衛墓

金吉村ノ伊福ト云地ニアリ墓ノ正面ニ義及
智光居士ト記シ上ニ梵字アリ銘云居士俗名
又兵衛不知何所之人往昔此邑而寓居三年其
於為人志氣英威武德俊高而眼光射人予憶諸
侯大夫者之逆於世而適居者平兼應三甲午年
正月廿九日夜自殺劍及昔往歲久石碑闕落因

茲里人墓古新立石碑資助冥福者寶曆十三癸
未歲六月日願主金吉村伊福茂助ト記セリ是
公公ヲ憚リテ如斯不知顔ニ書ルモノナレ
ト後藤基次ナレ事ハ自然顯然夕リ抑此地ニ
奥墓ノ在ル故ハ古老ノ説ニ天正年中黒田侯
中津城主夕リシ時基次ハ其家臣ニテ中津ニ
居シガ金吉村ヨリ妾ヲ迎ヘ夕リ因元和元年
大坂落城ノ時遁下リテ金吉ノ妾ノ家ニ身ヲ
隠レテ村人童兒ニ年ナド教ヘテ活計トシ日
ヲ送り又然ルニ秀頼公薨御賜ヒシ由□□國

ヨリ告来リシカバ基次今ハ生リトモ田斐ナ
シトテ燈火ノ下ニ寄ソシ涙ニ搔慕ワ、感狀
ナド取出テ火中ニ投シ即テ自殺セリト云大
坂記ニ後藤ノ戦死セシ時ハ四十六歳ノ由見
エタレハ兼應三年マテ存セシトスル時ハ八
十五歳ナリ菅茶山ノ筆のすさびト云モノニ
後藤入兵衛戦死以ト云偽ル々潜尔落失ク豊
後日田の近側山中村尔住以筑前の野村新右
衛門ト云々又兵衛の聳形リ此尔形見に遺セ
十鎗ありト書ルハ此伊福ヲ云ルニヤ此里ハ

日田ノ近側ナル山中ナレド山中ヲ即テ村名
トシ豊後ト書ルハ誤ナリ又武隱叢話ニハ藝
列川埜村へ立退レの後々下野七井村ト云処
尔住レ川埜三郎ト改号シ万治年中其地尔ク
卒以ト見エタリ此モ一傳トハ見エレド如何
アテム

○ 槻村六助墓

津民庄槻木村ニアリ是人企救郡射鹿野ニテ
微塵彈正ヲ討テ後ニ加藤清正主ニ仕テ不由
孫兵衛ト名ヲ改メ朝鮮へモ渡リテ軍功ヲ顯

シタルガ終ニ彼國ニテ討死セリ此ハ西國大
現實録等ニ委シク見エテ平記彦山權
ヨク知タル事ナレハ今ハ婦女子モ審ニ不不故其家族
トモノ奥墓ヲ建タルニシテ有ム扱ケヤキトツ
キノキトハ甚ヨク類タル不ニテ見分難キ計
ナレハ概字ヲ即テ俗ニケヤキト訓リ故六助
ガ家名ヲケヤムトハ云成ヘシ
○三尾母村古碑
上ニ梵字アリテ康永元年子十一月十日阿彌
蓮佛敬白ト記セリ

○犬丸村城趾

元暦ノ頃豊後緒方三郎惟伊繫ノ城ヲ所々ニ
築シ時此城ヲモ城キキテ一族大神惟貞ヲ置ク天
正十六年犬丸民部一説結城寺リニカ黒田家
ヨリ攻落サレ久リ今モ構口ト云処アリ

○上伊藤田村城趾

伊藤田甲斐守義忠居城今モ城カ内城ノ本城
出谷ト云田字アリ

○下伊藤田村城趾

犬丸民部居城ノ城ノ入文ノ

○田丸城趾

天壽ノ

○曰福嶋村ニアリ天慶ノ頃藤原純友ヲ征伐ノ為
天福嶋四郎長久築ク天文ノ頃深水兵庫介景
○下氏居心天正十六年城主福嶋佐渡守黒田家ヨ
リ攻落サレタリ今モ本丸附城ナト云田字ア
リ

○大篠城址
賀來村ニアリ元暦ノ頃平家ヲ撃ムトテ源義
經築ク後緒方ノ一族賀來次郎惟興城主トナ
ル惟興ヨリ世ニ代守藝守終直黒田家ヨリ攻
ラレテ城ノ裏門ヨリ出テ豊後ニ奈ラムトモ

シテ秣大炊幕峰ニ兵ヲ伏テ討取り又跡ニ
宅ニ大夫ヲ城番トス此城東ニ黒水アリ西ニ
三角池アリテ要害ヨキ城地ナリ今モ付城外
堀ナト云田字アリ

○坂手隈城址
藍原村ニアリ此城鶴居城ニ云是ハ城趾人
下ニ鶴市社アリ思ハハ鶴市夫訛ルナリ
○市藍原元京亮築テ子孫世々居ル今モ其跡存レ
○法華寺城趾

○新永添村三ツアリ小城源六兵衛重通一説築テ子

孫世々居ル今モ小城屋敷ト云アリ

○未弘城趾宗通

同村三ツアリ未弘主膳正行守ル天正十七年野

仲兵庫黒田家ノ命ヲ受テ來リ攻ム正行降テ

○城ヲ渡ス

○池永村城趾宗通

宇佐式佐大貞社ヲ薦池守ト成テ代々守ル天

文ノ頃池永筑後守房勝居ル天正十六年黒田

家此城ヲ攻ムトテ寒江堂ヲ本陣トシテ野

村栗山ノ両将ハ吹上坂寒江堂ヨリ向ヒ井上

後藤ノ両将金丸吹上坂ヨリ向ヒテ攻落ス城

○主池永石馬頭重則自殺ス今モ城屋鋪アリ

○地神城趾宗通

田口村三ツアリ田口氏世々居ル今モ城山ト云

○三重城趾宗通

田口秣両村ノ境ニアリ田口太郎右衛門居城

○下深水村城趾宗通

○土建久七年宇都宮宗房ノ四男深水伊賀守興房

○築ク天正十六年破却ス今田字ニ代官屋鋪具

足田十下云アリ
○土田村城趾
○野仲兵庫頭ノ抱城ニテ百留河内守守ル今モ
城ガ鼻城ガ尾ト云田字アリ

○長岩城趾

津民庄ニアリ建久七年宇都宮宗房ノ二男伊
豫守重房築テ子孫世々居ル天正十六年四月
四日黒田家ヨリ攻落サレ城主野仲兵庫頭重
兼自殺セリ
○白米城趾

平田村ニアリ黒田家臣栗山大膳ノ番城ナリ
今モ城口城後本丸西丸ト云島字アリ

○萬田村城迹

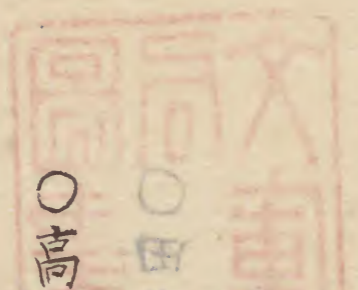
弘治ノ頃小城源兵衛重通居ル豊筑乱記ニ大
友家臣万田参河守鑑實ト云アリ天正ノ頃ハ
○田此人居レニヤ

○高城ノ趾

柿坂村ニアリ宇都宮氏ノ抱城ニテ野仲氏世

○福土村城趾

○福土村城趾



○誅城主未詳

○植野村城趾

岸佐郡記云上野右衛門尉小孫人見云外祖是

○田嶋崎城趾

成恒村云貞長元年成恒近江守種隆築テ
世々居ル佐々木三郎大夫朝綱ノ嫡流ナリ城

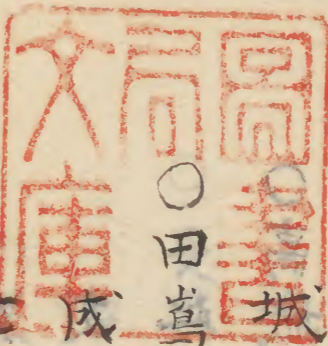
○萬石天正十六年破却ス

○戸城趾

宮園村ニアリ城山ノ妙見嶽ト云慶長ノ頃荒

川少兵衛和光居ル細川家臣ナリ雲八幡宮ノ末社ニ

妙見社アリ往昔ハ一戸城内ニ有レトリ



○ 御紙三書
○ 推野村致

中使御覽上野元衛門尉上卷人見之五九十八



大正四年四月廿九日
大正四年四月廿九日
大正四年四月廿九日

大正四年四月廿九日

大正四年四月廿九日
大正四年四月廿九日
大正四年四月廿九日

